



AWS Change Acceleration 6-Pointフレームワークと OCM Toolkit

AWS 規範ガイドンス



AWS 規範ガイド: AWS Change Acceleration 6-Pointフレームワークと OCM Toolkit

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

序章	1
概要	4
ターゲットを絞ったビジネス成果	5
6-Pointフレームワークガイドについて	6
ポイント 1. チームの準備	7
1.1 改革促進の趣意書を策定する	8
1.2 バリュードライバーを分析する	9
1.3 ガバナンスを確立する	10
1.4 プロジェクトチームを編成する	10
1.5 プロジェクトの目標と目的を決める	11
1.6 未来の状態を規定する	12
1.7 ビジネス指標を定義する	14
1.8 予算を定義する	15
ポイント 2. リーダーの連携	17
2.1 リーダーシップの連携	18
2.2 ステークホルダーの評価	19
2.3 変更の影響評価	20
2.4 組織の準備状況評価	22
2.5 変更ケースの作成	22
ポイント 3. 未来を思い描く	25
3.1 改革促進の戦略と計画を作成する	26
3.2 コミュニケーション戦略と計画を作成する	27
3.3 エンゲージメント戦略と計画を作成する	28
3.4 トレーニング戦略と計画を作成する	28
3.5 リスク軽減戦略と計画を作成する	30
3.6 スポンサーのロードマップを作成する	31
3.7 持続可能性計画を作成する	31
ポイント 4. 組織を関与させる	33
4.1 変更管理計画の実施	34
4.2 コミュニケーションプランの展開	34
4.3 エンゲージメントプランの展開	35
4.4 トレーニングプランの展開	36
4.5 リスク軽減の監視と管理	36
ポイント 5. 能力を発揮させる	38

5.1 報酬を与え、表彰する	38
5.2 ワークストリームと役割を再設計する	39
5.3 ギャップについて話し合い、抵抗を管理する	40
ポイント 6. 文化の変化を定着させる	42
6.1 フィードバックループを確立する	42
6.2 導入管理チェックリストを作成する	43
6.3 実施後の計画と持続可能性計画を策定する	44
まとめ	47
よくある質問	48
6 ポイントフレームワークは新規顧客または新規移行のみを対象としていますか?	48
文化と改革におけるリーダーシップの促進とはどういう意味ですか?	48
クラウドの導入になぜ文化と改革を促進する必要があるのでしょうか?	48
エグゼクティブスポンサーまたはリーダーとして、組織のクラウドジャーニーをさらに成功させるために何ができるのでしょうか?	49
文化と改革におけるリーダーシップをアクティブなワークストリーム、または専門的領域と考えるべきでしょうか? この機能をクラウドチームに適用したり、人員を配置したりすべきでしょうか?	49
組織に文化と改革におけるリーダーシップの促進が必要かどうか、どうすればわかりますか?	50
改革促進は組織にどのような価値をもたらしますか?	50
次のステップ	52
リソース	53
AWS Change Acceleration 6-Pointフレームワークガイド	53
AWS リソース	53
AWS ブログ投稿、記事、ポッドキャスト、動画	53
その他のリソース	54
ドキュメント履歴	56
用語集	57
#	57
A	58
B	60
C	62
D	65
E	69
F	72
G	73

H	74
I	76
L	78
M	79
O	83
P	86
Q	89
R	89
S	92
T	96
U	97
V	98
W	98
Z	99
.....	c

AWS Change Acceleration 6-Pointフレームワークと組織変更管理ツールキット

Nicole Lenz、Melanie Gladwell、Scott Watson (Amazon Web Services (AWS))

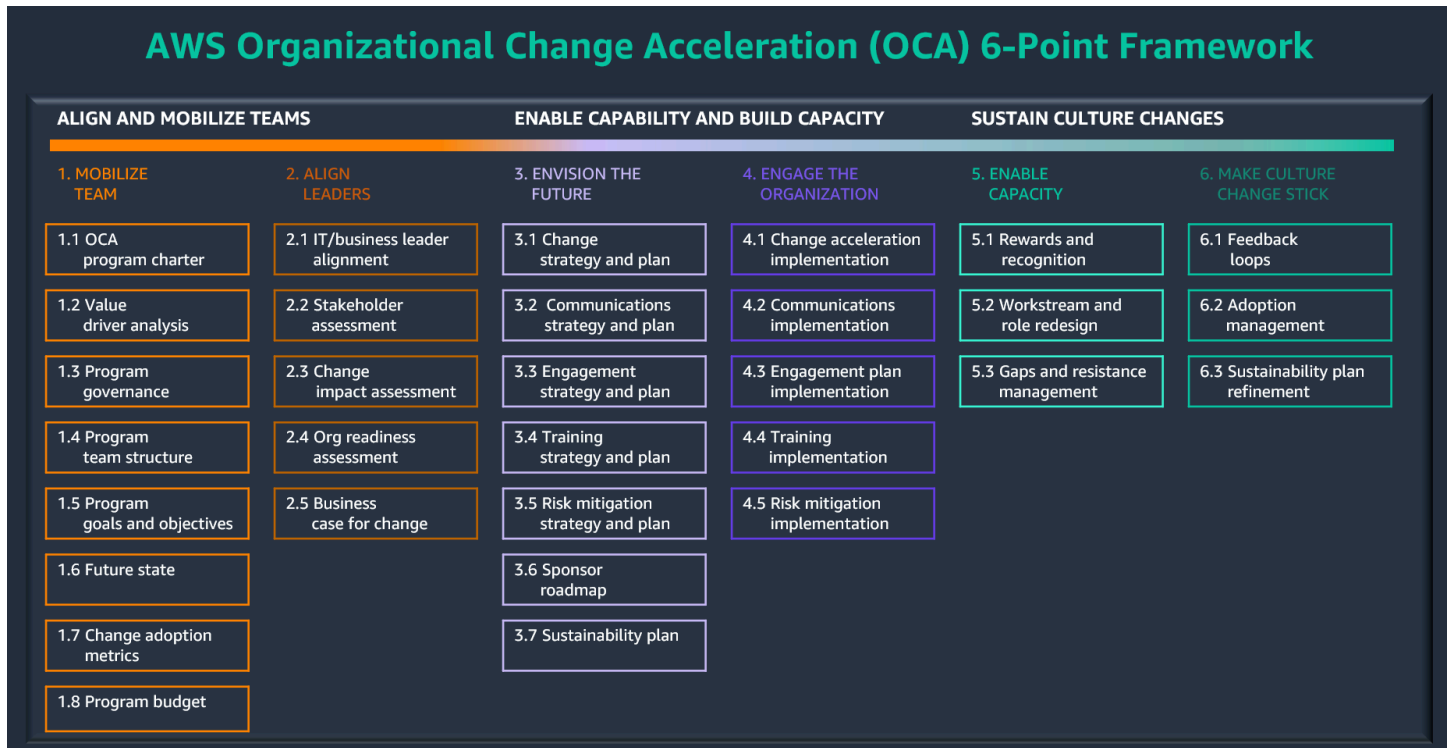
2025年2月 ([ドキュメント履歴](#))

クラウドの価値は、リーダーがテクノロジーと同程度に人材に注目したときに実現します。クラウドトランスフォーメーションを開始した企業は、当初、この変革が組織の文化や仕事上の役割、スキル、リーダーシップに及ぼす影響を考慮することなく、テクノロジーに意識を集中したいという誘惑に駆られます。しかし当社の経験では、クラウド導入の変革的価値を認識するには、組織の調整、リーダーシップ、人材の能力、文化、に積極的に注目することがカギとなります。

AWS Change Acceleration の 6-Pointフレームワークと Organizational Change Management Toolkit は、クラウドリーダーとそのチームがクラウド導入の望ましい成果を実現するために適切な手順に優先順位を付けるのに役立ちます。AWS Change Acceleration 6-Pointフレームワークは、プログラムによる証拠ベースの組織変更導入フレームワークです。テンプレート、ガイドライン、補足のアーティファクト、評価、アクセラレータ、ツールなど一連のセットが包括的に含まれ、現在の状態からトランスフォーメーションが実現した未来の状態へと移行する際の、新しい作業方法の導入を加速するように設計されています。

この6つのポイントは、プログラムのキックオフに始まり、ステークホルダーの調整、会社の準備態勢、認識向上、能力開発に至るまでのアジャイルなペースに一致させることができ、持続可能な長期的変化を生み出します。6つのポイントは以下のとおりです。

1. [チームの準備](#)
2. [リーダーの連携](#)
3. [未来を思い描く](#)
4. [組織を関与させる](#)
5. [能力を発揮させる](#)
6. [文化の変化を定着させる](#)



各ポイントは、さらに実行可能な具体的作業に分かれており、本書ではその例を紹介していきます。AWS 改革促進アプローチは、投資収益率 (ROI) に焦点を当てて設計されており、組織のサービスとソリューションの導入 AWS を加速し、パフォーマンスへの影響を最小限に抑え、プロジェクトの完了時間を短縮します。変化と適応の能力を改善することが、変革レベルの成功を実現するカギとなります。が毎年急速なペースでイノベーション AWS を続け、組織がそれらのソリューションを迅速に採用し、さらにイノベーションを進めるにつれて、ビジネス価値が強化されます。クラウドトランスフォーメーションの最初の成功が、より早く、より効率的で、よりコスト効率に優れた導入につながり、移行とモダナイズのサイクルが繰り返されていきます。

AWS Change Acceleration の 6-Pointフレームワークと Organizational Change Management Toolkit は、クラウドトランスフォーメーションのライフサイクル全体にわたる人関連の問題と課題を網羅することを目的としており、より広範な実装作業に合わせて適用できます。このフレームワークは、による AWS テクノロジー、プロセス、新しい作業方法をお客様が採用するのに役立ちます。

- 主要なリーダーの特定、調整、動員。
- クラウドトランスフォーメーションにおける組織的インパクトの評価および緩和。
- 組織の改革促進、コミュニケーション、トレーニングのアクションプラン、リーダーシップ、スポンサーシップ、文化戦略、およびロードマップの設計と推進。

本書では、「改革促進」という言葉を使用しますが、これは「改革促進ならびに組織変更管理」のことを指しています。組織によっては、「組織変更管理」(略して OCM) という言葉の方が使い慣れているかもしれません。

概要

組織がクラウドの価値を実現できているかどうかは、コスト削減の程度を測定するほかに、クラウドが可能にする新しい仕事の方法に、組織がどの程度うまく適応できているかによって測定されます。改革促進は、顧客のビジネスの生産性と俊敏性に価値をもたらします。プログラムによるデータ駆動型のアプローチを使用して改革促進を行うことで、組織のクラウドの流畅さと、企業全体のクラウドの影響に対処するための準備態勢が確立されます。AWS 改革促進は、クラウドの文化的影響を深く掘り下げ、変更する受容性、変更の成功と失敗の履歴 コミュニケーションパターン、組織構造 エグゼクティブスポンサーの主な役割 リーダーシップのコミットメント 詳細な変更の影響、および IT とビジネスのステークホルダーの部門間の連携。

改革促進に適したケースを見きわめることは一筋縄ではいきません。深く根差した歴史や文化的な基準、組織の政治などが目に見えないことがあるためです。一方で、改革促進が必要であることを示す兆しが、はっきりと目に見えることもあります。例えば、範囲が大幅に変わる、タイムラインが複数年に及ぶ、さらには合併、買収、売却、お客様側のリーダーの交代などです。これらのいずれのケースでも、期間が急に変更されたり優先順位や組織内の構造の変わったりして、戦略が変更される可能性は高くなります。これらの要因が劇的な波及効果をもたらし、企業におけるクラウド移行とモダナイズの取り組みが失速することがよくあります。現時点では改革促進が必要ないように思われたとしても、上記のような兆しに常に目を配り、いざとなったらすぐ対応できるよう準備を整えておくことが重要です。

クラウドトランスフォーメーションは、ビジネス部門とテクノロジー部門を横断して、広範囲にわたって変化を引き起こします。このような変化に効果的に対処しないと、トランスフォーメーションの取り組みが遅れたり頓挫したりする場合があります。ベンチマークのデータ、ベストプラクティス、過去の学びなどから、構築済みかつ統合済みの、透明な、プログラマティックなエンドツーエンドの変革プロセスを、トランスフォーメーションの開始時に採用した企業は、そのようなプロセスを採用しなかった企業よりも、クラウド移行とモダナイズのジャーニーの成功率が高いことが明らかになっています。トランスフォーメーションの取り組みの開始時に、プログラマティックな改革促進計画し実行すると、共有された1つの事実が企業全体に広がります。ワークフォースが、新しい仕事の方法を、より速く、より習熟した方法で受け入れ、取り入れ、採用し、自分のものとするためです。

改革促進を管理することは、画一的な方法では対処できません。したがって、クラウドのリーダーシップ、人材、トレーニング、コミュニケーション、文化に関する企業の望ましい成果に最も合うように、改革促進フレームワークをカスタマイズすることが推奨されます。ビジネスリーダーと IT リーダーを含む部門横断的なクラウドリーダーシップチームを任命、調整、動員します。アクティブかつ目に見えるエグゼクティブスポンサーを任命します。ジャーニーの早い段階で成功の外観を定義し、作業を進めながら見きわめていきます。インパクトの評価を通じて、組織のクラウドへの準備態

勢を評価し、未来を構想します。主要なリスク、相互依存関係、変革の障害を特定します。さまざまなリスクに対処し、いろいろな強味を生かした、改革促進のための戦略とプランを策定します。これには、リーダーシップアクションプラン、人材のエンゲージメント、トレーニング、リスク軽減戦略が含まれます。適切なメッセージを適切なタイミングで各ステークホルダーグループに届けるコミュニケーション戦略を策定します。組織を引き入れ、新しい機能を使って新しい仕事の方法を取り入れる人数を増やせるようにして、新しいスキルの習得を促し、導入を加速させます。明確に規定された指標を追跡し、早い段階での目標達成には褒賞を与えます。連携して変革を進め、勢いを増すのに役立つ既存の文化の方策を活用します。継続的なフィードバックの仕組み、報酬、認定プログラムを設定して、変化を持続させます。

ターゲットを絞ったビジネス成果

ビジネス成果は組織によって大きく異なりますが、例えば以下のようなものが含まれます。

- 時間の節約: クラウドジャーニーの開始やスケールを妨げている組織的、政治的、文化的、リーダーシップ的な障害を特定して取り除きます。
- 従業員のエンゲージメントと成長: クラウドジャーニーに従業員を関与させ、AWS テクノロジーに期待、準備、スキルを持たせるための、ワークフォーストランスフォーメーションの戦略を作成します。
- リスクの影響の軽減: 新たな望ましい行動はこれを認定し報酬を与えてリスクを管理、軽減することにより、クラウド導入による状況の急速な変化に伴ってコンプライアンス違反が生じるリスクを軽減します。
- 組織の適応能力: より多くの変化をより速いペースで実現し、すばやく導入してスケールする能力を開発します。
- 変革リーダーシップの調整と動員: リーダーシップの機能を強化し、リーダーを動員して変革を推進し、成果を重視した部門横断的な意思決定を実現します。
- 人材の変革: 変化やイノベーション、組織的俊敏性を受け入れ、変化し続ける顧客や市場の需要（購買パターンの変化、規制の変更、リモート対オンサイトの働き方など）に対応できる、高い価値を持った俊敏で適応力のあるワークフォースを育成します。人材を育成し役割を刷新して、主要な機能を自主的に推進できる、デジタルに精通してパフォーマンスの高い適応力のあるワークフォースを、引き付け、開発し、保持します。
- 人材の活用: リーダーシップ、学習、報酬、インクルージョン、パフォーマンス管理、キャリアの流動性、採用までを横断した人材管理戦略を刷新し、適切なスキルを持つ適切な人材が、適切なタイミングで適切な役割を担い、新しい、クラウドに精通した新しい行動をとれるようにします。

- 文化の発展: デジタルトランスフォーメーションへの期待と、俊敏性、自律性、明確性、スケーラビリティのためのベストプラクティスを使って、組織文化を評価し、段階的に進化させ、体系化します。
- 変革の導入: 変革のインパクトの評価から得られた情報を使って、新しい仕事の方法の採用戦略を決めると同時に、クラウドを効果的に活用してビジネス成果を加速させる、変革の連動的ネットワークとデジタルの洞察力を構築します。
- 組織の調整: 組織内の各部門、ビジネスオペレーション、プロセス、人材、文化の間で継続的な連携を確立し、市場状況に応じたすばやい採用を可能にして、新たな機会を活用する組織の能力を向上させます。

この概要のセクションでは、AWS Change Acceleration 6-Pointフレームワークと Organizational Change Management Toolkit を論理的に分類し、クラウド導入ジャーニー全体で参照できるようにします。各セクションで、本フレームワークの6つのポイントの1つずつに焦点を当てます。

6-Pointフレームワークガイドについて

このガイドは、AWS Change Acceleration の6-Pointフレームワークを対象とする一連の出版物の一部です。このフレームワークは、プログラムによる証拠ベースの組織変更導入フレームワークです。

コンテンツセットには、クラウドトランスフォーメーションを加速するために設計された包括的なテンプレート、ガイドライン、サポートアーティファクト、評価、アクセラレーター、ツールのセットが含まれています。この概要から始めてフレームワークとその6つのポイントを理解し、各ポイントの詳細な説明については以下の個別ガイドを参照することをお勧めします。

1. [チームの準備](#)
2. [リーダーの連携](#)
3. [未来を思い描く](#)
4. [組織を関与させる](#)
5. [能力を発揮させる](#)
6. [文化の変化を定着させる](#)

クラウドトランスフォーメーション戦略、ガイド、リソースの包括的なセットについては、[「クラウドトランスフォーメーションの加速」](#)を参照してください。

ポイント 1. チームの準備

チームの準備では、仕組みを構築し、改革促進の取り組みや活動にまつわる成功の測定方法およびガバナンスを確認します。本ポイントには次の 8 つのポイントが含まれています。

[1.1 改革促進の趣意書を策定する](#)

[1.2 バリュードライバーを分析する](#)

[1.3 ガバナンスを確立する](#)

[1.4 プロジェクトチームを編成する](#)

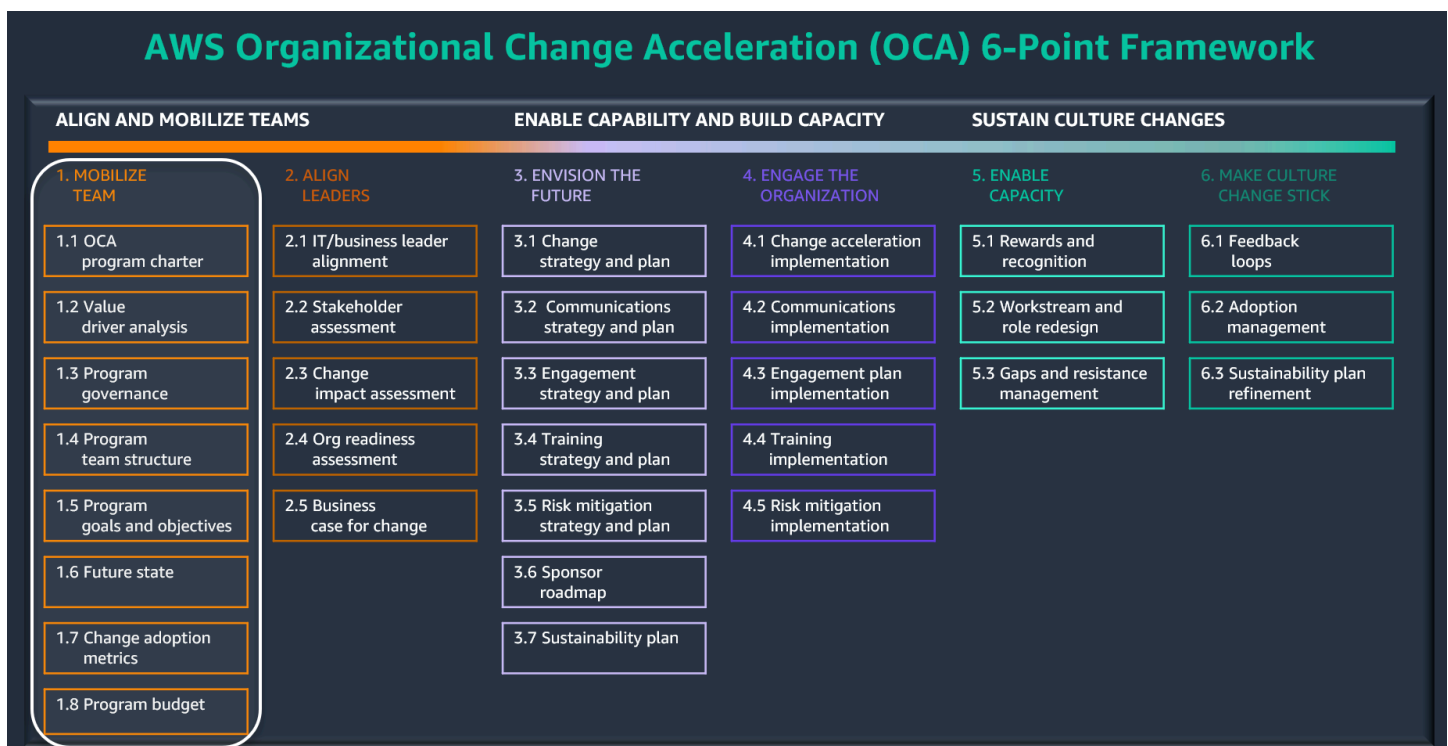
[1.5 プロジェクトの目標と目的を決める](#)

[1.6 未来の状態を規定する](#)

[1.7 ビジネス指標を定義する](#)

[1.8 予算を定義する](#)

このセクションでは、Mobilize チームとそのサブポイントの概要を説明します。詳細については、[AWS 「Organizational Change Acceleration \(OCA\) 6-Point Framework – 1」のガイドを参照してください](#)。チームを動員します。



1.1 改革促進の趣意書を策定する

説明

正式な改革促進の趣意書は、リーダーシップの調整を構築し、クラウドプログラムの開始時からの、変革の促進の作業範囲を承諾することを、意図した文書です。この文書では、クラウドプログラムチームの他の分野への依存状況、ならびに主要なステークホルダーが特定されています。改革促進の趣意書には、以下が記載されています。

- 改革促進の成果物のレビュープロセス。
- 改革促進のアクティビティに関連したステークホルダーの責任の定義。
- 改革促進の指標および報告要件の定義。

有益である理由

改革促進の趣意書は、目的が記され、十分に検討され、明確な構造を持っています。スピードを最大化し、導入を最適化し、組織のリスクを軽減するためのソリューションと戦術がタイムリーに提供されています。クラウドのプログラムには、問題や中断の原因となるリスクが否応なく含まれています。この文書では、成果物、ステークホルダーの役割と責任、指標、報告を割り振り、こうした問題を予測し、先回りして対処します。

活用場面

クラウドプログラムが開始したら、さまざまなグループと連携して情報を集めます。

- プログラムリーダーと会合し、ビジネスケース、作業範囲、タイムライン、マイルストーン、作業レベルに関する情報、ならびに主要なステークホルダーの会合に関する情報を集めます。
- エグゼクティブスポンサーと会合し、クラウドバリューのビジョンと望ましいビジネス成果に関する情報を集め、アクティブかつ目に見えるスポンサーシップのレベルを確認します。
- ワークストリームのリーダーと会合し、作業範囲、重要な成果物やイベントのスケジュール、改革促進チームとのやりとりに対する期待、に関する情報を集めます。
- 変更管理、コーポレートコミュニケーションまたは戦略的コミュニケーション、従業員エンゲージメント、人事、トレーニング (または学習や能力開発) など内部のグループ (該当する場合) と会合し、彼らがクラウドプログラムにどの程度のサポートを提供しようとしているか、また、そのグループに提供する必要のある改革促進レポートに何が期待されているかを把握します。

上記の情報は、必要とされている、改革促進のサポートおよび関与のレベルを確認するのに役立ちます。上記のトピックについて話し合うミーティングをスケジュールし、ステークホルダーとの関係構築を開始します。

1.2 バリュードライバーを分析する

説明

バリュードライバー分析は戦略策定の重要な基盤となるものであり、マネジメントが自社の業務を整理して重要な戦略的手段を定義する際に役立ちます。この分析は、業績の評価基準と株主価値の創造の結びつきをさらに強化する、業績向上のためのアプローチを提示します。バリュードライバーは、成長ドライバー、効率ドライバー、財務ドライバーに分類できます。企業は、価値創造への道を、成長機会への投資、業務効率化への投資、価値を損なう活動の売却、資本コストの削減、などを通じて切り開く傾向にあります。

有益である理由

企業では、価値にほとんどインパクトをもたらさない業績基準を達成したマネージャーに意図もなく褒賞が与えられることがよくあります。こうしたことは、企業が価値創造の原動力を見きわめ、それを軸にパフォーマンスを測定する方法を構築できれば、回避することができます。それによりリーダーは、価値に最大限のインパクトをもたらす活動に専念できるようになります。

活用場面

バリュードライバー分析は、組織内の機能やレベル別に、価値を創造するための具体的な道筋を精査し明確化するときを使用します。この分析により、マネージャーは最も重要な要素に焦点を絞れるようになります。通常、マネージャーは営業成績に影響を与える変数に関する確かな知識を持っており、そのリストを綿密に管理しています。そのリストに含まれる変数の数が多すぎて価値の創造以外の目標が優先させがちになると、問題が生じます。バリュードライバーは価値に対して著しいインパクトを持つものでなければならず、また、コントロールできる必要があります。

- 価値に対して大きなインパクトがあり、マネジメントへの影響力も高いバリュードライバーは、優先的に管理します。
- 価値に対して大きなインパクトがあり、マネジメントへの影響力が低いバリュードライバーは、戦略を変えることで構築し直します。
- 価値に対するインパクトが小さく、マネジメントへの影響力が高いバリュードライバーは、モニタリングの対象にします。
- 価値に対するインパクトが小さく、マネジメントへの影響力も低いバリュードライバーは、優先度を低くします。

1.3 ガバナンスを確立する

説明

ガバナンスとは、エグゼクティブ、主要なステークホルダー、クラウドプログラムチーム、改革促進チームの間で統一的な調整を確保するものです。またガバナンスでは、改革促進に関連したアクティビティの、帰属、意思決定、問題管理、エスカレーションプロセスも定義されます。

有益である理由

明確な構造とガバナンスとが確立されたプログラムは、そのいずれかが確立されていないプログラムに比べ、成功する可能性が高くなります。これは、意思決定や、意思決定に関連した帰属が、クラウドプログラム遅延の主な要因となることが、多いことによるものです。ガバナンスは、意思決定の権限を定め、ツーウェイアディシジョン (低いリスクですばやく実行でき、簡単に取り消すことのできる意思決定) とワンウェイアディシジョン (簡単に取り消すところがないため、前者よりも長い思考、熟考を要する意思決定) に関する指針を提供します。

活用場面

ガバナンスの使用目的は、改革促進プログラムで決断力のある明確なリーダーシップをとって説明責任を果たすことを可能にすること、品質の保証および問題やリスクをエスカレーションするための手段を提供すること、プログラムに関する意思決定の枠組みを規定すること、ワークストリームの構造を既存のプロジェクト、プログラム、組織を横断するガバナンス構造に一致させること、残りのプログラムの頻度および報告の仕組みに対応した会議やさまざまな行事の回数を決めることです。

1.4 プロジェクトチームを編成する

説明

プロジェクトチームとは、クラウドプログラムを動かす組織のことです。クラウド移行とクラウドトランスフォーメーションを行うときは、改革促進の中でもプログラムの非技術的な側面に対処するための専門知識が必要になります。加えて、多くのクラウドプログラムでは、移行またはトランスフォーメーションの過程で会社を組織的、事業的移行に導く、Cloud Center of Excellence (CCoE) を設置することを決定します。CCoE を設置した場合、改革促進チームはこの CCoE の内部におかれ、組織の変革、変革のインパクト、役割の変更、コミュニケーション、トレーニング要件の特定、およびエグゼクティブスポンサーシップの確保に責任を負うことになります。

有益である理由

プログラムにおける他のあらゆる側面と同様、改革促進チームに、説明責任を負う経験豊富な専任の人材を配属すれば、よりスムーズにクラウドに移行することができます。企業におけるクラウド導入ジャーニーの遅れや問題の多くは、意思決定のまずさ、コミュニケーションの課題、部門間でのリーダーシップの調整不足などに原因があります。こうしたリスクを最小限に抑えながら文化を前進させることで、導入に要する時間を著しく短縮することができます。

活用場面

プログラムの開始時に、改革促進に焦点をあてた重要な役割を含むチームを編成します。人員のレベルを継続的に評価し、プログラムの範囲やタイムラインに合わせて増員や減員を判断します。以下は、このプロジェクトチームの主要な役割と責任の一例です。

- 人事変革エグゼクティブアドバイザー: エグゼクティブプログラムスポンサーや、移行またはトランスフォーメーションを担当する他の IT リーダー、ビジネスリーダー (CIO、CTO、クラウドプログラムディレクター、CCoE リーダーなど) と連携します。
- 改革促進リーダー: 改革促進のチーム、成果物、プログラムレベルのタイムラインに関するすべての側面を管理します。顧客側のワークストリーム担当者、プログラムマネージャー、クラウドプログラムディレクター、CCoE リーダー、その他プログラムのワークストリームリーダーと連携します。
- エグゼクティブによる改革促進の監督およびプログラム監視: すべてのレベルで協力し、品質保証に責任を負いながらプロジェクト戦略を推進し、実装を成功に導きます。
- 組織の準備とコミュニケーションのリーダー: コミュニケーション戦略を策定し、コミュニケーション計画を実行します。必要に応じて、顧客コミュニケーションリーダーや、その他、ビジネスリーダーやアプリケーションオーナーなどのステークホルダーと連携します。
- トレーニングリーダー: トレーニングの戦略およびプランを設計、開発します。顧客教育リーダーや人材開発またはトレーニング担当リーダーと協力し、トレーニングの最適な告知方法、トレーニングコースのユーザーを絞り込む方法、トレーニング実施の管理方法、顧客環境でトレーニングを展開する方法、を決定します。
- 特定分野の専門家 (必要に応じて): 文化の分析、多様性とインクルージョン、戦略的なワークフォース計画など、プログラムのさまざまな側面に特化した役割です。

この役割は、改革促進チームの基盤として機能します。クラウド移行やクラウドトランスフォーメーションの範囲を世界規模で増加、変更、拡大するのにあわせてリソースを追加することもできます。

1.5 プロジェクトの目標と目的を決める

説明

クラウド移行またはクラウドトランスフォーメーションの目標と目的は、まず発見の段階で定義し、移行準備状況評価 (MRA) と移行準備プランニング (MRP) の過程で磨き上げます。改革促進チームは、自分たちの活動とこれらの目標および目的を一致させ、戦略に組み込みます。目標と目的は、ビジネスケース、お客様への聞き取り、移行チームのミーティング、MRA と MRP での調査結果を基にします。

有益である理由

評価およびプランニングのセッションに改革促進チームを参加させることで、AWSにおけるアプリケーションとワークロードの移行とモダナイズの、人材、プロセス、テクノロジーの各側面間で調整を図ることができます。それによりチームは、CCoE の設計と実装、ハイブリッドオペレーションモデルの CCoE への移行、クラウドジャーニーの進化に合わせた新たなプロセスや手順の作成に、より集中できるようになります。

活用場面

プロジェクトの目標と目的は、クラウド導入ジャーニーを推進し、モニタリングし、進捗状況を測定するのに使用します。最初に、すでに目標として掲げられていることを把握します。次に、新しい、的を絞ったシンプルな目標を設定します。すぐに理解できない目標は、適切な目標とはいえません。目標に対する現時点での進捗状況をビジネスリーダーに報告し、最新の結果に基づいてビジネスシナリオを予測する、指標と測定の仕組みを構築します。戦術的な目標を達成してビジネスを戦略的に管理するためには何が必要か、検討します。目標を設定するときは、以下の SMART の法則を考慮します。

- S — 具体的 (Specific)。目で見えて理解できる成果を設定します。
- M — 測定可能 (Measurable)。成果の進捗状況を数値その他で示せるようにします。
- A — 達成可能 (Achievable)。成果は実現なものにします。
- R — 関連性がある (Realistic)。他の目標や戦略的取り組みに一致するかこれを補えるようにします。
- T — 期限を決める (Time-bound)。達成日を決めておきます。

1.6 未来の状態を規定する

説明

クラウド移行またはクラウドトランスフォーメーションの未来の状態とは、クラウドソリューションによって実現されるビジョンと潜在的価値とを明確化したものをいいます。未来の状態は、組織が行

う評価の結果から導き出します。未来の状態では、組織の文化、構造、人材、テクノロジー、プロセスが、クラウドを中心とする新しい仕事の方法と一致していることが示されます。

将来の状態をモデル化するときは、[AWS Cloud Adoption Framework \(AWS CAF\)](#) の人材視点の以下のコンポーネントへの変更を記述することを検討してください。

- 文化の発展: デジタルトランスフォーメーションへの期待に沿って、組織文化を評価し、段階的に発展させ、体系化します。
- 変革リーダーシップ: リーダーシップの機能を強化し、リーダーを動員して変革を推進します。
- クラウドフルエンシー: 自信を持って効果的にクラウドを活用し、ビジネス成果の実現を加速するために、デジタルへの洞察力を養います。
- 人材の変革: 人材の育成と役割の刷新を通じて、デジタルに精通した優秀な人材を誘致、育成し、定着させます。
- 改革促進: プログラマティックな改革促進フレームワークを採用することで、新しい仕事の方法の導入を推進します。
- 組織設計: クラウドを活用した新しい仕事の方法に合わせて組織設計を評価し、発展させます。
- 組織調整: 組織構造、事業活動、人材、文化の間に継続的連携を確立します。

有益である理由

未来の状態は、人材、スキル、組織を変革するために採用する、改革促進アプローチにさまざまな情報を与えます。したがって効果を高めるにはいくつかの詳細な分析が必要になります。未来の状態を定義する分析には、意思決定分析、プロセス分析、ビジネス能力分析、機能分解、プロトタイプング、製品ロードマップなどの方法を使用できます。アプリケーションポートフォリオの特性は、この未来の状態の、運用モデルの柔軟性に影響を与えることを覚えておきましょう。

活用場面

未来の状態のアプローチは、職場での仕事の方法を意識的に変え、ビジネス戦略の推進方法を決めるときに使用します。それにより、外部委託、内部委託、マネージドサービスの採用など、ビジネスのさまざまな側面が劇的に変わる可能性があります。未来の状態に関するこの種の決定を下すときは、多彩な経験を持つ人々や、さまざまな専門知識を持つ人々に参加を促し、イノベーションを働きかけます。多くの企業は、クラウド移行またはクラウドトランスフォーメーションの影響を受けるユーザーベース (機能、地域、役割など) の足跡を示す、チェンジエージェントのネットワークを特定することから、恩恵を得ています。チェンジエージェントとは、知識が豊富で、身元が確かで、信頼でき、正式な権限の有無にかかわらずネットワーク内で影響力を持つ人のことをいいます。さらに、組織調整について考え、組織構造、事業活動、人材、文化の間の継続的な連携を確立します。未来の状

態はクラウド導入ジャーニーと共に進化する可能性が高いため、柔軟でなくてはなりません。したがって、移行期間中は合理的に達成可能な、暫定的な未来の状態を1つ以上定義し、目標とする未来の状態に照らして進捗状況を定期的(年に2回または4回)に評価します。

1.7 ビジネス指標を定義する

説明

改革促進指標とは、組織で働く人々の間で必要なプロセスやテクノロジーの変更、移行、クラウド導入がどの程度進んでいるか、モニタリングし追跡する業績基準です。指標には質的なものと量的なものがあり、予定より早くまたは遅く進んでいることを示す指標を、両方含めることができます。

質的な指標(変化に対する従業員の認識や関与)と量的な指標(定期的なトレーニングに参加した従業員の割合や、直属の上司から変更を知らされている従業員の割合など)の両方を追跡する、改革促進スコアカードを作成しておくことが推奨されます。

改革促進スコアカードでは、以下に焦点を当てます。

- 共通のビジョンと戦略 — プログラムに対する認識、メッセージの有効性、戦略と実行の一致状況、プログラムのインパクトレベル。
- スポンサーの参加と調整 — プログラムへの関わり、プログラムの準備状況、優先付け。
- ビジネスユーザーのエンゲージメント、リソースに対する認識、変化が日常業務に及ぼしている影響への理解のレベル。
- スキルコンピテンシーと能力開発 — トレーニングの有効性、認定資格の取得、クラウドで業務を遂行するための準備状況。

有益である理由

プロジェクトによっては、導入や移行に関する技術、財務、運用面が細かく追跡されモニタリングされる一方で、人間に関連する問題は、顕在化するまで無視されたり調査されなかったりする場合があります。しかし、プロジェクトの実施や移行の中断を特徴づけている高い失敗率は、運用や財務よりも、変革の最中に人材をうまく管理できなかったことの方と深く結びついています。移行を成功させビジネスの導入を進めるには、以下の指針が不可欠となります。

- リーダーに、クラウド移行の実装の取り組みを報告し、サポートを得る。
- 未来に関する明確で簡潔かつ適切に表現されたビジョンと、変革が重要である理由が理解されている。

- 全レベルのステークホルダーが個人のレベルの変革を理解している。彼らは、そこに至るまでに何が必要かを理解しており変革の主導権を握っている。
- 変革の影響を受けるすべての従業員が、変革を十分に認識し、そのための準備を整え、適時適切なトレーニングを受けている。
- プログラムの情報と補完的なリソースを移行の前にも後にも入手できる。

以上の指針は、改革促進の堅牢なプランによって実装され、ビジネスユーザーによる導入を促し、プログラムの成功を後押しします。

活用場面

クラウド移行プロセスの早い段階で、改革促進指標を確認して作成し、プログラムのライフサイクル全体を通じて追跡することが重要です。指標の追跡には、アンケート、Eメールの受信、Eメールのリンクの使用、ウェブページの閲覧またはクリック、各種評価、習熟度の指標、1対1のミーティング、主要なプログラムイベントへの参加、チェンジエージェントのフィードバック、ネットプロモータースコアの他、色々な測定値を使用できます。

1.8 予算を定義する

説明

予算とは、プログラムの特定の期間 (1年間など) あるいはクラウドトランスフォーメーションの全期間に対する財務計画のことです。改革促進ワークストリームでは、クラウド移行やクラウドトランスフォーメーションの人的、組織的側面のサポートに関するコストを理解することが、タスクやリソースを管理、実装し、リスクを軽減するカギとなります。予算は改革促進の各プロジェクトで変わりますが、その一部は、変革管理のリソースに充てるのが推奨されます。十分なリソースと有効な変革管理との間には、明確な関連性があります。詳細については、Prosci のウェブサイトにある「[Best Practices in Change Management](#)」のポイント 5 を参照してください。(Prosci は、変革管理のベストプラクティスを専門とする調査会社です)。

予算の要件は、以下のように分類できます。

- 改革促進チームのリソース (変革管理、トレーニング、コミュニケーション、テクニカルライター、教育設計者など)
- 資料の開発 (コミュニケーション、社内マーケティング、翻訳、印刷物など)
- スキルと知識 (専門のトレーニング、インストラクター主導のトレーニング、ゲームデー、ワークショップ、シミュレーション、認定など)

- 出張やイベント (組織の準備状況の評価、現地視察、インストラクター主導のトレーニング、関心を高め刺激をもたらすための情報拡散イベントなど)
- ソフトウェア (学習管理システム、教育設計のライセンス、登録費用、レポート費用、ウェビナー用の会議ツールなど)
- ハードウェア (ノートパソコンのリース、トレーニングのためのレンタルなど)
- 施設 (オフサイトトレーニングの会場費用、会議室、プロジェクター、AV 機器など)

予算に制約のある組織では、従来は物理的な環境で対面により行われてきたトレーニングやイベントの多くを、オンラインで非同時的に実施すれば、コストを節約できるだけでなく、これまでよりも多くのチームメンバーを世界中から集めることができます。

有益である理由

改革促進のための投資は、変革の規模や、予定されている活動の範囲と、直接一致している必要があります。この範囲を理解すれば、予想されるコストや見積もりを、よりクリアに把握することができます。

予算の配慮が必要となるのは、改革促進、組織の変革管理、組織設計、文化、コミュニケーション、トレーニングリソースです。また、トレーニングやコミュニケーション用資料の開発、デプロイ、配布、ソフトウェア、ハードウェア、出張関連費用についても考慮する必要があります。

活用場面

堅牢な予算の作成をサポートするため、改革促進アクティビティの大半では、移行準備状況評価 (MRA) の情報を使って事前に予測を行い、計画を立てることができます。クラウド移行の最中は、予定外の活動が表面化することがあります。その場合は、調査と評価とをさらに行い、リーダーチームから承認を得る必要があります。

ポイント 2. リーダーの連携

リーダーの連携は、主要なステークホルダーの特定、オンボーディング、準備を行い、クラウドプログラム直接的および間接的なユーザーをターゲット化し、クラウドへの移行に伴う影響を体系的に軽減するためのものです。これには次の5つのサブポイントがあります。

[2.1 リーダーシップの連携](#)

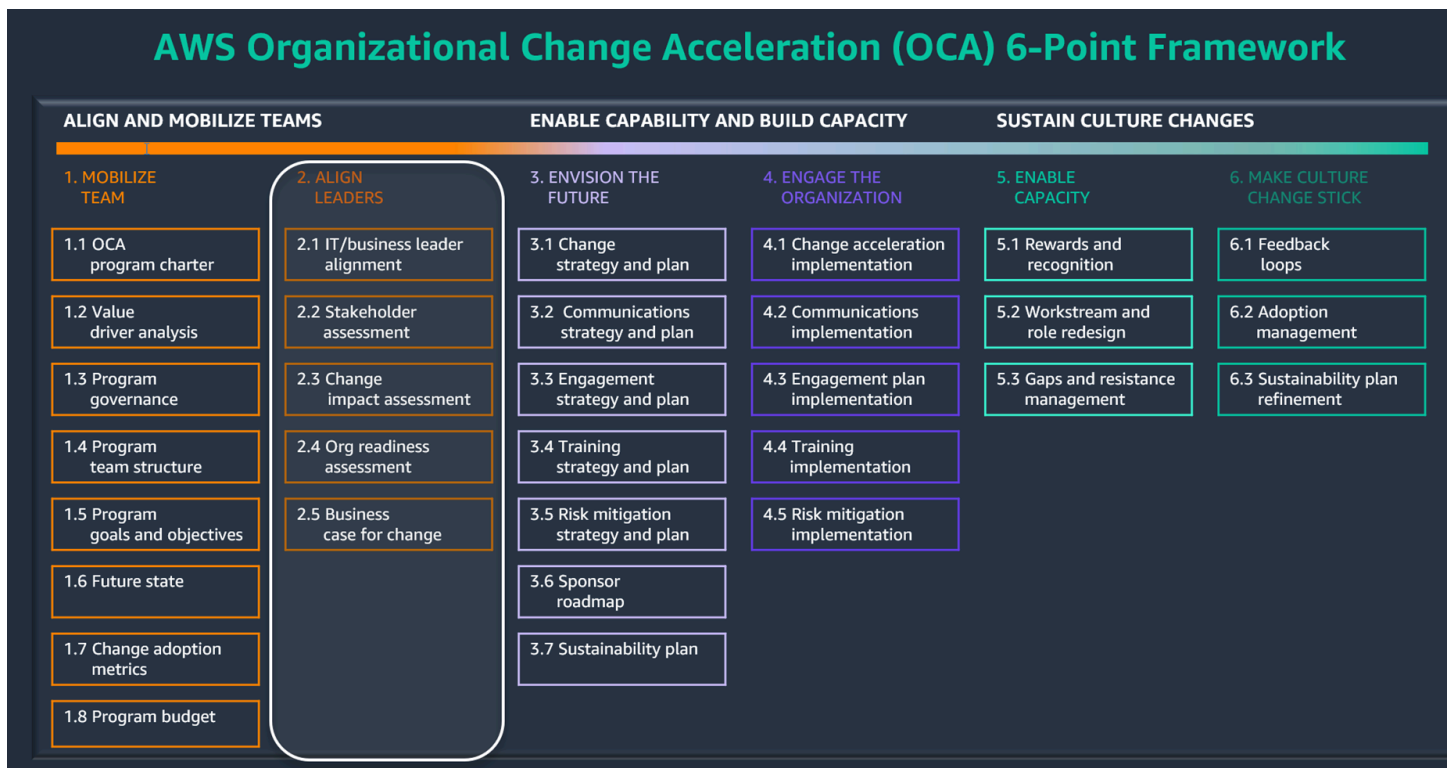
[2.2 ステークホルダーの評価](#)

[2.3 変更の影響評価](#)

[2.4 組織の準備状況評価](#)

[2.5 変更ケースの作成](#)

このセクションでは、Align リーダーとそのサブポイントの概要を説明します。詳細については、[AWS 「Organizational Change Acceleration \(OCA\) 6-Point Framework – 2」のガイドを参照してください。](#) [リーダーを連携させます。](#)



2.1 リーダーシップの連携

説明

リーダーシップの連携とは、クラウド変革と新しい未来の状態への移行を推進するために、グローバルおよびリージョン/ローカルの主要なビジネスステークホルダーや IT ステークホルダーによる関与とサポートを確保するプロセスです。CCoE を使用している場合は、機能の最適化が整備されているかどうかを定期的に評価し、より広範なクラウド変革の目標に対応するために、拡大、成長、変更すべきタイミングを判断する必要があります。

リーダーシップの連携活動の例として、ステークホルダーの管理と連携計画、リーダーシップの行動計画、必要に応じた主要なステークホルダーの更新への関与などがあります。一般的に、マネージャーや従業員は、リーダーがあるイニシアチブを支持しているのを見ると、それを優先するようになります。

有益である理由

リーダーシップの連携によって、イニシアチブとそのコミットメントに対する継続的な理解が理解が深まります。これにより、クラウド変革の目標、デリバリー計画、影響に優先順位をつけることができます。このプロセスは、戦略目標と、その目標に伴う変更の意味合いについて、リーダーの足並みが揃っている領域と揃っていない領域を特定し、リーダーシップチームの意識、理解、変更へのコミットメントを高めることに重点を置いています。

リーダーが一貫して同じ考えを持つことはほとんどなく、特に、クラウド変革に関する新しいイニシアチブや可能性に対しては考え方にばらつきがあります。懸念事項がある場合は、無視するのではなく、対処するようにしてください。懸念の根底にある理論的根拠に焦点を当てて、共感を持って耳を傾け、可能な場合は懸念事項に対処または修正することで、チームはリーダーとの信頼性と友好的な関係の両方を獲得することができます。

活用場面

リーダーシップの連携を成功させるには、プロジェクトの早い段階で主要なステークホルダーとリーダーの特定、オンボーディング、準備を行います。リーダーシップの連携の根源に到達するためには、データ駆動型のアプローチを使用して情報を収集します。例えば、主要なステークホルダーにインタビューし、それぞれに対して同じ 7~10 個の質問をすることで、全体的な意思統一を確立する基準値が得られ、変更チームが注意を向けるべき箇所が明らかになります。プログラム全体を通じてリーダーシップの連携を構築し続けるには、リーダーによるサポートを強調してスポットライトを当て、リーダーシップの行動計画を作成し、検討会議を一定のペース (毎月または四半期毎など) で開催するようにします。

2.2 ステークホルダーの評価

説明

ステークホルダーの評価は、ステークホルダーを管理する最初の段階であり、クラウド移行または変革の取り組みに対するステークホルダーの管理範囲、影響力のレベル、配置を特定して理解するためのものです。

ステークホルダーの評価では、クラウドプログラムの影響を受ける人々を特定して情報を収集します。この評価は、クラウド移行や変革のジャーニー全体で以下を行う際に使用できます。

- 変更の影響を受ける社内外の関係者を特定する。
- ステークホルダーがクラウド移行や変革に着手する準備が整っているかどうか、および参加に伴う課題やリスクをモニタリングする。
- クラウドプログラム全体を通じてステークホルダーをサポートする。
- クラウドプログラムを推進または支持する変更担当者を特定する。
- クラウドプログラムが組織に与える影響の範囲と影響を理解する。

ステークホルダーと協力するときは、対象者のセグメント化とターゲティング、望ましいコミュニケーションチャンネル、主要イベント、組織内の連絡先についてのガイダンスを依頼してください。

有益である理由

ステークホルダーの期待を理解することで、改革促進チームは、彼らの反応をより効果的に予測して、肯定的な反応を活用しながら、否定的な反応を回避または対処することができます。さらに、この評価によって、エグゼクティブリーダーシップ、プログラムリーダーシップ、実装チーム間の認識のギャップが明らかになります。ステークホルダーを一貫して評価する系統的アプローチによって、改革促進チームは、クラウドプログラムに対する受容度、認識、一般的な考え方のレベルを把握するために使用できるデータソースを得ることができます。ステークホルダーには、IT、ビジネス、財務、人事などを代表する、変更の影響を受けている組織内チームの部門横断的なリーダーを含める必要があります。また、ステークホルダーには、必要に応じて、組織の特徴や文化、地域的および世界的なセグメント、集中型および分散型セグメント、言語/翻訳要件にまたがるリーダーも含める必要があります。

取得したインサイトやステークホルダーの評価の結果を活用して、コミュニケーション計画、トレーニング計画、パフォーマンスメトリクス、変更担当者のネットワークなど、プログラムの存続期間を通じて持続できる多くのアーティファクトを構築できます。この評価は関係構築の機会としても機能し、ステークホルダーにクラウドチームを指定してもらうこともできます。

活用場面

ステークホルダーの評価は、変更のケースを通知して、組織の初期準備、コミュニケーション、トレーニング計画を支援するために、早期に実施する必要があります。また、プロジェクト、範囲、影響、ステークホルダーの入れ替え (脱退者と加入者) の変更を反映するために、評価はクラウドプログラム全体で定期的に見直し、更新する必要があります。ステークホルダーをプログラムの継続的な管理に定期的に関与させるようにします。

チームがステークホルダーをプログラムイベントに参加させる方法を検討してください。また、ステークホルダーが各自のイベントにクラウドプログラムを含める機会も検討してください。より多くの従業員が自社のリーダーシップと使い慣れたコミュニケーションチャネルを通じてクラウドプログラムに慣れていくと、クラウド移行をより円滑に進めることができます。クラウドプログラムに対するステークホルダーのエンゲージメントや関心が高まるにつれて、そのステークホルダーの部下である従業員も、そのジャーニーに対するエンゲージメント、参加、感情に追随するようになります。

2.3 変更の影響評価

説明

変更の影響評価では、変更のマクロ効果を調べ、各ステークホルダーグループのさまざまなスキル、プロセス、パフォーマンス管理、テクノロジーの成果について報告します。現在の状態と将来の望ましい状態との間の著しい違いを特定し、把握する必要があります。クラウド変革が組織にどの程度影響するかを測定することは、改革促進プログラムの介入を適切に計画する上で極めて重要です。一般的な変更には、プロセスの再設計、新しいテクノロジー、新しい組織構造、新しい役割と責任、新しい指標と報告メカニズムなどが含まれます。

有益である理由

ステークホルダーグループが変更の影響を強く受けている場合は、ユーザーと管理者の両方に意識向上を促すメッセージを送信します。ステークホルダーグループへの影響はそれほど大きくないが、その変革がネガティブなものとして受け止められる場合や、そのステークホルダーグループのワークロードの増加につながる場合にも同様のメッセージを送信します。

変更の影響を評価して文書化することで、ユーザーはプロセス領域、サブプロセス領域、テクノロジーまたはアプリケーションレベル、ステークホルダーグループへの影響、役割への影響など、より低い粒度レベルの変更を理解できるようになります。その結果、変更の影響分析を使用して、改革促進計画、コミュニケーション計画、またはトレーニング計画に組み込む適切なステップを決定することができます。また、この分析は、クラウドの導入と成功に密接に関連しているステークホルダー

や、コミュニケーション、ガバナンス構造、意思決定ポイント、ポリシーの見直しなどのさまざまなチャンネルに含めるべきステークホルダーを特定するためのツールとして使用することもできます。変更の影響を分析的かつ系統的に積み重ねることで、変更状況をコンテキスト化して、変更の程度の大きさに圧倒されるステークホルダーグループがないかどうかを把握することができます。そのようなステークホルダーグループがいる場合、計画を変更して、それに応じてデプロイの間隔を空けることができます。

クラウドテクノロジーの新しさゆえに、組織では従業員やステークホルダーが経験する変更への影響を予測するのが困難な場合もあります。さらに、クラウドは変化のスピードが速く、毎年新しいサービスが導入されるため、変更による新たな影響が継続的に発生し、経験することになります。クラウド導入が組織全体に拡大するにつれて、ステークホルダーグループ、事業部門、リージョンなどにも影響を及ぼします。

活用場面

プログラム全体で変更の影響評価を活用して、ステークホルダーグループがいつどのように関与するかを文書化し、それらの影響に対処するための具体的な計画を策定します。考慮すべき実際的な例をいくつか紹介します。

- マネージャーの場合、従業員にトレーニングが必要になる時期、クラウド固有の業績評価指標を他の年間業績計画に組み込む必要がある時期、論拠が必要になる時期などを文書化する。
- 人事関係者の場合、主要なトレーニングイベントが必要になる時期、雇用計画が必要になる時期、これらの変更による採用計画への影響、スキル開発の機会を明らかにする時期、組織設計の変更が必要になる時期、クラウドの人材とスキルの価値を市場でテストするために報酬評価を実施すべきかどうかを文書化する。
- 労使協議会や労働組合の関係者の場合、提起される可能性のあるリスクや懸念、それに対処するための最善策、コミュニケーションの透明性を向上させるために定期的な会議の日程を設けるべきかどうかを文書化する。
- 財務関係者の場合、人員やトレーニング活動の予算が必要になる時期、クラウドジャーニーによる予算プロセスや予算サイクルへの影響、オンプレミスからクラウドへの移行による社内の固定費や変動費の処理方法の変更を文書化する。
- [FinOps の視点](#)を考慮し、クラウド変革の結果として、IT 利害関係者、ビジネス利害関係者、財務関係者、開発者がどのような異なる取り組みを行う必要があるのかを特定します。[FinOps 機能](#)の採用は、プロセス、ツール、役割、責任に影響を与える可能性が高く、これらの機能は変化による影響を特定するためのデータソースとして使用できます。これらの影響は、コミュニケーションの確立、トレーニング、FinOps に関連した考え方や文化の変化のほか、企業がクラウド投資の価値を管理、測定、認識する方法の確立につながる可能性があります。

2.4 組織の準備状況評価

説明

組織の準備状況評価は、顧客組織の変化への適応傾向、能力、意欲を把握するために使用します。組織の準備状況評価を使用して、準備状況のギャップを埋めるための強み、障壁、課題を特定します。通常、組織の準備状況評価にはアンケート調査が使用されます。

有益である理由

組織の現在の文化や組織構造、および望ましい状態を理解することが重要です。この評価を活用して、変更の取り組みを効果的に進めるために対処しなければならない機会と障壁を特定し、変更の受け入れに関してクラウド変革の取り組みがどのような状況にあるかを測定し、変更の取り組み全体の目標をサポートする行動計画を使用してリスクを軽減することができます。結果を参加者と共有して、進捗状況、共感、プログラムのスピードを示すことができます。

活用場面

アプリケーションの試験的なデプロイなどの主要なマイルストーンで組織の準備状況評価を実施し、準備状況を初期段階で把握します。この初期評価は、改革促進計画やその他の介入策のタイミングを改善するためのメカニズムとして役立ちます。組織の準備状況評価と調査結果の結果によっては、以下を行う必要がある場合があります。

- プログラムの戦略的ビジョンとビジネスケースを見直す。
- プログラムの追加スポンサーを獲得する。
- プログラムの所有権を部門横断的なリーダーに拡大し、チームへの期待を伝えるために行動するよう促す。
- コミュニケーションやトレーニングにさらに投資する。
- スキル構築を優先して、従業員がクラウドに関する見識を高め、認定資格を取得する機会を得られるようにする。

2.5 変更ケースの作成

説明

変更ケースとは、クラウド変革と変更の理論的根拠を結びつけるメッセージとドキュメントです。変更ケースは、強力なビジネスケースによる裏付けがあることが理想的で、ステークホルダーからのクラウド変革へのコミットメント生み出すことができる一貫したビジョンを伝えるために使用します。

企業全体または機能固有のメッセージを伝え、IT、ビジネス、財務、顧客、従業員にメリットを説明するように、カスタマイズして拡張することができます。

変更ケースを作成するときは、基本的な基準を念頭に置いてください。このドキュメントでは、クラウドプログラムを初めて使用するユーザーや慣れていないユーザーでも理解できる、シンプルかつ明確な言葉でメッセージを伝える必要があります。現在の状況を説明して、クラウド変革を現時点で開始した場合と遅らせた場合の結果を明記して、変更が必要な理由を説明する必要があります。必要に応じて、変更ケースをビジネス成果を向上させる他のイニシアチブと連携させ、従業員がクラウドジャーニーに参加するためのその他の方法も把握する必要があります。変更ケースのメッセージでは、覚えやすく比喩的な表現を使って将来の状態を説明し、記憶に残るようなものにします。変更ケースでは、声や口調、感情、言葉の選択といった形でリーダーシップチームの個人的な信念を誠実に伝えるべきであり、それを実現させるために個人がすべきことを説明する場合があります。変更ケースのメッセージも簡潔にする必要があります。1 ページのドキュメント、または他のコミュニケーションやイベントに含めることができる 5 分程度の短いプレゼンテーションで伝えるのが理想的です。

有益である理由

リーダーは、組織が現在および将来の市場で成功できるように、変更を実行しなければなりません。従業員は、リーダーが求めている変更が理にかなっていないと思わなければ、抵抗することもあります。変更を望む人と、変更しなければならないから変更する人とは、業績に大きな差が出ます。変更の確固たるケースを十分に伝えることで、従業員は自分の意志でクラウド変革のジャーニーに取り組むようになります。

活用場面

変更ケースは、ステークホルダーの評価を実施した後に作成してください。リーダーが変更ケースを作成することで、関連するインフルエンサーに対してクラウド変革のメリットを明確かつ誠実に伝えることができます。ステークホルダーの評価では、クラウドジャーニーのメリットと理論的根拠について具体的に質問しているため、変更ケースでは、変更およびそれがビジネスにどのように役立つかを説明する全体像がおのずと浮かび上がってくるはずですが、変更ケースでは、クラウドジャーニーを行わなかった場合に、オンプレミスに留まることによって他の戦略的優先事項にどのような支障をきたすかについて、およびコストと人材への影響についても説明する必要があります。

変更ケースは、さまざまなコミュニケーションを通じて活用してください。例えば、変更ケースを 1 ページにまとめて、それを従業員の全体会議で検討します。次に、特定の会議やトレーニングクラスの参加者にとって、変更ケースがどのように役立つかについて焦点を当てます。すべての主要な会議やクラウド変革イベントを変更ケースを使用して開始すると、従業員はそのケースを熟知でき、役割ベースレベルで理解し始めます。従業員が変革の理由を他の従業員に明確に伝えることができ

ば、そのメッセージは企業文化の一部となり、組織のクラウドジャーニーはボトムアップとトップダウンの両方向から変革し始めることができます。変更ケースを提示するときは、質問を投げかけて、従業員を双方向の対話に参加させるようにします。これにより、予期しないところからエンゲージメントや関与が生まれ、従業員がクラウドジャーニーに対して一貫した考えを持つようになります。

ポイント 3. 未来を思い描く

「未来を思い描く」では、改革促進戦略を策定し、組織の従業員同士がコミュニケーションを取り、トレーニングを行い、クラウド導入の過程に参加できるようにするための計画を立てることを目的としています。「未来を思い描く」には次の7つのサブポイントがあります。

[3.1 改革促進の戦略と計画を作成する](#)

[3.2 コミュニケーション戦略と計画を作成する](#)

[3.3 エンゲージメント戦略と計画を作成する](#)

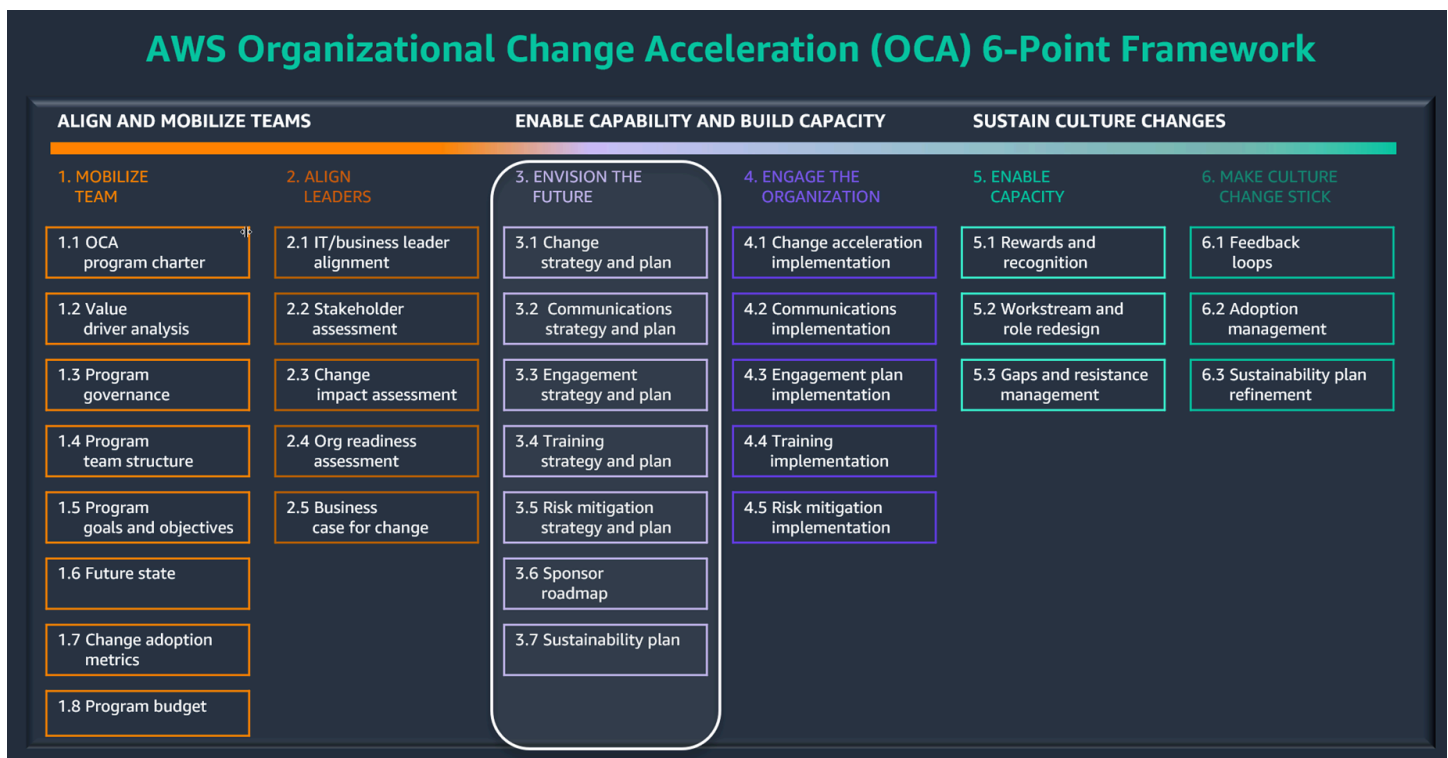
[3.4 トレーニング戦略と計画を作成する](#)

[3.5 リスク軽減戦略と計画を作成する](#)

[3.6 スポンサーのロードマップを作成する](#)

[3.7 持続可能性計画を作成する](#)

このセクションでは、Envision the Future とそのサブポイントの概要を説明します。詳細については、[AWS 「Organizational Change Acceleration \(OCA\) 6-Point Framework – 3」](#)を参照してください。未来を構想します。



3.1 改革促進の戦略と計画を作成する

説明

改革促進の戦略と計画とは、クラウドトランスフォーメーションの全過程を通じて、適切な変革戦略を適切なタイミングで適切な人に与えられるように、考え抜かれ、構造化されたアプローチのことで、この戦略と計画は、最低限の中断と最大限の成果をもって、クラウドトランスフォーメーションの結果として組織に導入された変化が、リーダー、従業員、その他の利害関係者に受け入れられるようにするための包括的なアプローチの概要を示すフレームワークとして機能します。この計画は、プロジェクトまたは取り組みにおけるツール、テクノロジー、プロセス、スキルの適用を調整するための体系的なメカニズムとなります。計画には、ビジネス、テクノロジー、サプライチェーン、組織構造、プロジェクト範囲の運営における上記の変化に対して組織が対処する具体的な方法が記載されています。この戦略によって方向性が示され、クラウドトランスフォーメーションプロセス全体を通じて情報に基づいた意思決定を可能にします。

有益である理由

新しいシステムや戦略は、組織に大きな混乱をもたらす可能性があります。綿密な戦略とは、プロジェクトや変更が組織にどのような影響を与えるかを説明するものです。組織の変更管理戦略を効果的に策定するには、変更が必要な時期を認識する方法、変更を承認する方法、変更が望ましい効果を生み出していることを確認するモニタリング方法に関して、利害関係者が計画を立てる必要があります。

改革促進戦略を立てることで、望ましい未来の状態への移行をスムーズに進めることができます。この戦略は、リスク、パフォーマンスの問題、事業の中断、コストの増大を最小限に抑えるのに役立ちます。事業の継続性と顧客へのサービスレベルを確実に維持できます。リーダーたちの足並みを揃え、影響を受けるすべての対象者が変化に対応し、変化に備えることができるようになります。利害関係者の意識、関与、理解を促し、文化的変革を促進してコラボレーションや新しい働き方を奨励するのに活用できます。また、この戦略は、目標を達成し、継続的な成功に向かう場所に身を置くために、変化を取り入れて維持する方法を組織に教える上で役に立ちます。

活用場面

改革促進戦略はプログラムの開始時に作成する必要があるため、変化を加速させる計画は、プログラム内の主要なマイルストーン、フェーズ、リリース、またはエピック時に作成、レビュー、更新する必要があります。組織の改革促進プロセスには、チームと従業員間の緊密な協力が必要です。この戦略とそれに続く計画では、人事チーム、クラウドトランスフォーメーションチーム、エグゼクティブスポンサー、リーダー、外部ベンダー、AWS パートナーの間で効果的なパートナーシップを構築し、維持する必要があります。

3.2 コミュニケーション戦略と計画を作成する

説明

コミュニケーション戦略と計画は、クラウドトランスフォーメーションの過程を通じて、適切なメッセージを適切なタイミングで適切な人に届けられるように、考え抜かれ、構造化されたアプローチのことです。クラウドトランスフォーメーションの価値と利点を強化するには、経営幹部からのコミュニケーションが重要であり、コミュニケーション戦略と計画の策定には、クラウドプロジェクトリーダー、クラウドトランスフォーメーションリーダーとエージェント、社内コミュニケーションチーム、人事部からの意見が不可欠です。

コミュニケーション戦略とは、組織のアウトリーチやコミュニケーション活動の目標と方法を記述した文書のことです。コミュニケーション計画には、戦略に取り組み、前述の目的を達成するためのコミュニケーション活動に関する詳細な情報が含まれます。計画には各アクティビティについての説明があり、公開日、対象者、詳細なメッセージ、メディアタイプ、作成者、承認者、メッセージャーなどの情報が含まれます。コミュニケーション戦略は通常、頻繁には更新されませんが、コミュニケーション計画は頻繁に (通常は毎週) 更新されます。

有益である理由

クラウドトランスフォーメーションが進むにつれて、コミュニケーションチームは、メッセージングが強化され、クラウドトランスフォーメーション全体を通じて展開の準備ができているようにする必要があります。効果的なコミュニケーション戦略と計画は、必要なすべてのアクティビティを考慮に入れる必要があります。こうして可視化することにより、クラウドトランスフォーメーションのストーリーが対象のグループにどのように展開されるかを理解しやすくなり、作業の期限を設定するのにも役立ちます。

コミュニケーションはクラウドトランスフォーメーションを促進し、改革促進に対する認識を高めます。これは、グループに新しい働き方を受け入れてもらうための第一歩です。コミュニケーションは、変更の文化的側面についても説明し、「私にとって何がそこにあるのか」という質問に対する回答を提供します。さらに、コミュニケーションは将来の状態と移行中の状態の行動を動機づけます。コミュニケーションの頻度を設定することで、不安が和らぎ、変化に対する抵抗や拒否のリスクが最小限に抑えられます。コミュニケーション戦略により、主要な利害関係者はクラウドトランスフォーメーションプロジェクト全体の認識、理解、コミットメントを高めることができます。

活用場面

計画段階では、コミュニケーション戦略と計画を策定することが重要であり、これらをどれだけうまく実装できるかが、移行がどの程度受け入れられるかと、組織の取る行動を決定する要因となる可

能性があります。コミュニケーション戦略と計画への取り組みは、クラウドトランスフォーメーションプロジェクトの開始時、通常は移行準備状況の評価時に開始されます。このフェーズでは、ギャップ、変更の影響、移行の影響を受けるチームや従業員が特定されます。コミュニケーション戦略を策定するときは、組織内のコミュニケーションプロセスに従って、クラウドメッセージングとアクティビティを最適に設計してください。

3.3 エンゲージメント戦略と計画を作成する

説明

エンゲージメント戦略と計画とは、個人、利害関係者グループ、または組織がクラウドトランスフォーメーションによってもたらされる変化に対処する具体的な方法を説明する体系的なアプローチの概要のことです。エンゲージメント計画の目的は、すべての主要な利害関係者がクラウドトランスフォーメーションから得られる望ましいビジネス上の成果にコミットし、集中できるようにすることです。利害関係者を特定し、変更プロセス全体を通じて適切に関与させることは、プロジェクトの成功に不可欠です。戦略と計画には、クラウドプロジェクトリーダー、改革促進リーダー、トレーニングリーダー、準備状況評価チームのメンバー、社内トレーニング部門、人事部からの意見を入れる必要があります。

有益である理由

エンゲージメント戦略と計画により、クラウドトランスフォーメーションチーム内外の関与が強化されます。これにより、適切な人材が適切な情報を受け取り、適切なタイミングと方法で参加できるようになります。また、負荷がかかりすぎないように、プロジェクトの特定のマイルストーンで各利害関係者グループが経験しなければならない変化のペースと量を先を見越しながら管理するための強制機能として働きます。エンゲージメント戦略と計画を作成することで、利害関係者を積極的に関与させることができるため、潜在的な障害をさらに特定、管理、回避できる可能性があります。その結果、クラウドトランスフォーメーションに対する組織の取り組みと能力がさらに向上し、クラウド導入への移行を成功させる可能性がさらに高まります。

活用場面

利害関係者の評価、改革促進の戦略と計画の策定、コミュニケーション戦略と計画の作成という準備作業を完了したら、エンゲージメント戦略と計画を使用してください。これらの文書は、継続的なサポートを推進し、利害関係者の影響力を活用する方法として役立ちます。

3.4 トレーニング戦略と計画を作成する

説明

トレーニング戦略と計画では、実施すべきトレーニングと、トレーニングプログラムを開発して実施するプロセスを明確にします。これらの文書は、ユーザーがコミュニケーションチームから受け取った情報と、クラウドトランスフォーメーションが完了した将来の状況において自分の役割を果たすための今後の働き方を結び付けるのに役立ちます。クラウドチームの要件を満たすトレーニングを提供するには、トレーニングのニーズを特定し、そのニーズをサポートするトレーニングの概要を説明し、トレーニングを開発して提供するトレーニングプログラムを作成することが不可欠です。トレーニング戦略では、クラウド移行またはモダナイゼーションのトレーニングプログラムを作成して実行するためのアプローチとプロセスを概説しています。これには、学習ニーズの評価、トレーニングプログラムの開発と実施に関する大まかなアプローチ、トレーニング教材の開発プロセスの概要が含まれます。

トレーニング戦略とは、組織の学習および支援活動の目標と方法を記述した文書のことです。トレーニング計画には、戦略に取り組み、クラウド移行、モダナイゼーション、トランスフォーメーションといった目標を達成するためのトレーニングアクティビティに関する詳細な情報が含まれます。この計画では、各トレーニングのアーティファクトとイベントについて説明し、各イベントの実施日、対象者、詳細なメッセージ、トレーニング形式、作成者、承認者、インストラクターを指定します。通常、トレーニング戦略は頻繁に更新されませんが、トレーニング計画は頻繁に (通常は毎月) 更新されます。

[AWS Learning Needs Analysis](#) は、ビジネス上の役割と主要な技術的機能分野を対象とした、適応性のある役割ベースの自己評価調査です。役割に基づくスキルが採点され、概要レポートには組織のパフォーマンスとスキルギャップが示されます。スキルギャップには、クラスルームとデジタルサービスの併用、認定資格に関する推奨事項で対処します。この評価を行うことは、トレーニング戦略と計画を策定する上での基本的な第一歩となります。

AWS 技術スキル、その他のコンピテンシー、新しい働き方、プロセス関連のトレーニング、方法論 トレーニング以外にも、包括的なトレーニング戦略と計画の一部である必要がある場合があります。例えば、組織がより良いコラボレーションを促進しようとしている場合、戦略と計画には、コラボレーションツールを使って連携する方法を説明する必要があるかもしれません。ウォーターフォールモデルからアジャイルアプローチに移行しようとしている組織では、アジャイル手法、ツール、プロセス、サイクルに関するトレーニングを実施する必要があります。その他の一般的な例としては、データ分析やクラウドリーダーシップスキルもあります。

有益である理由

トレーニング戦略と計画を策定することで、組織は知識、スキル、能力を組織の目標に合わせて調整できると同時に、トレーニングプログラムへの投資の価値を実証することもできます。

AWS 学習ニーズ分析は、継続的な成長のための学習レコメンデーションを作成し、結果を実際に適用して、ワークフォースクラウドの洞察力にデータ駆動型のアプローチを提供します。

活用場面

トレーニング戦略と計画の取り組みは、クラウドトランスフォーメーションプロジェクトの開始時に始まります。このフェーズでは、ギャップと変化による影響を特定し、移行やモダナイゼーションの影響を受けるチームや従業員を特定します。

AWS 学習ニーズ分析は、プログラムの開始前、組織のスキルセットのベースライン作成、またはクラウドトランスフォーメーションが発表され、リーダーがトレーニングカリキュラムの予算編成と計画を検討した後のプログラムの後半で実行できます。

3.5 リスク軽減戦略と計画を作成する

説明

リスク軽減戦略と計画は、組織が潜在的なリスクにさらされることによる影響を適時に排除、軽減、または制御するように設計されています。これらの文書は、プログラム全体のリスクを一貫して評価する評価ツールを使用して、クラウドトランスフォーメーションの進捗状況を定期的に評価するメカニズムを提供します。評価ツールは定期的に使用することも、スクラムセレモニーで使用することもできます。リスク軽減戦略と計画を使用することで、行動の優先順位を決定し、問題になる前にリスクを評価することができます。また、リスク管理と是正措置を担当する責任者を割り当てることができます。これらの文書は、改革促進チームがリスクを分類する際の基準を定めるものです。例えば、ビジョンと明確性、文化、コミットメント、コミュニケーション、定着と関与、スキルと能力などです。

有益である理由

リスク軽減プロセスを確立することで、クラウドトランスフォーメーションを停滞、脱線、遅延させる可能性のある、人に関連する問題を体系的に把握できるようになります。これにより、チームがプログラムのライフサイクルの指定されたフェーズを進めていく中で、プロジェクトのステータスを継続的に見直すことができます。このプロセスにより、成果物が予定どおりに、予算内に収まり、高品質で生産されることが保証されます。また、クラウドトランスフォーメーションチームと連携してリスクを特定、評価、対処するための統合的なアプローチも提供します。

活用場面

プログラムの開始時にリスク軽減戦略と計画を立て、フォーマットを設計し、リスクの大きさを確認します。定期的に戦略と計画を見直し、必要に応じて更新します。

3.6 スポンサーのロードマップを作成する

説明

スポンサーロードマップとは、クラウドトランスフォーメーションと将来の組織への移行の一環として、変化するプロセスや行動への支持を表明するようリーダーに促す文書のことです。リーダーと協力して将来の組織のメリットと価値を促進し、包括的なサポートプランを構築し、リーダーに求められる、クラウドトランスフォーメーションと戦略的に一致した行動についてリーダーに説明責任を負わせることを目的としています。

有益である理由

積極的で目に見えるスポンサーシップは、クラウド移行、モダナイゼーション、導入を成功させるための主な推進力です。個人や組織に期待される望ましい行動を確立するには、積極的な関与とプレゼンスが不可欠です。プロセスを構造化することで、メッセージの一貫性が確保され、意図した組織目標の達成に役立ちます。リーダーが定期的にコミュニケーションを取り、期待される行動を示していれば、個人もそれに従うでしょう。

活用場面

クラウド移行とモダナイゼーションの初期段階からスポンサーのコミットメントを確保します。経営幹部やクラウド移行リーダー、モダナイゼーションリーダーに、スポンサーシッププロセスに関する一般的な認識と理解を伝えます。スポンサーを適切にオンボーディングし、役割の説明、説明責任、重要なメッセージ、スポンサーシップのロードマップ、タイムラインを提供します。改革促進チームがプロセスのあらゆる段階に関与し、コミットメントを確保するというメッセージを強調します。重要なメッセージにより、クラウド移行のビジョン、メリット、全体的なビジネス価値が強化されます。

3.7 持続可能性計画を作成する

説明

持続可能性計画には、クラウド移行やモダナイゼーションの初期段階を超えた、望ましい将来の行動や組織構造が記載されています。この計画は、クラウドテクノロジーの継続的な導入、反復可能なパターンとプロセスの使用、進化するテクノロジーに合わせた継続的なトレーニングの取り組みを確立するのに役立ちます。持続可能性計画は、当初のクラウドトランスフォーメーション、移行、モダナイゼーションの取り組みにとどまらず、当初のビジョン、ビジネス価値、メリットを長期的に引き出すためのものです。これにより、将来のモデルで期待されるプロセスと行動が強化されます。

有益である理由

持続可能性計画は、将来のモデルの導入をサポートするのに必要な手順を確保し、長続きすることを目的として、初期のクラウド移行段階の先を見据えています。人とテクノロジーが時間とともに進化しても、クラウドトランスフォーメーションを将来にわたって保証するメカニズムを提供します。

活用場面

クラウドトランスフォーメーションが進行中で、チームがそのプロセスに関する経験を積んだら、持続可能性計画を作成します。クラウド移行チームとモダナイゼーションチームは、運用方法を反復して実験するのが一般的です。そのため、持続可能性計画の作成が早すぎると、手直しが発生する可能性があります。計画作業をリーダーチームと調整して、クラウド移行やモダナイゼーションの初期段階の先にある期待を理解します。組織の変化、立場、役割、責任、コミュニケーションのギャップ、追加のトレーニングニーズ、ナレッジライブラリやリポジトリについても検討することが重要です。プロジェクトが進行し、チームの作業速度が向上し、規模が拡大するにつれて、持続可能性計画も進化する可能性があります。持続可能性計画を最新かつ正確に維持するために、毎週ステータスを更新してニーズを把握することが必要になるかもしれません。

ポイント 4. 組織を関与させる

「組織を関与させる」では、策定した戦略や計画を活性化し、すでに実施したさまざまな評価から得られた知見を活用することを目的としています。トランスフォーメーションが始まると、トランスフォーメーションの負担はクラウドトランスフォーメーションチームやクロスファンクショナルリーダーから従業員ベースに移り始めます。「組織を関与させる」には次の5つのサブポイントがあります。

4.1 変更管理計画の実施

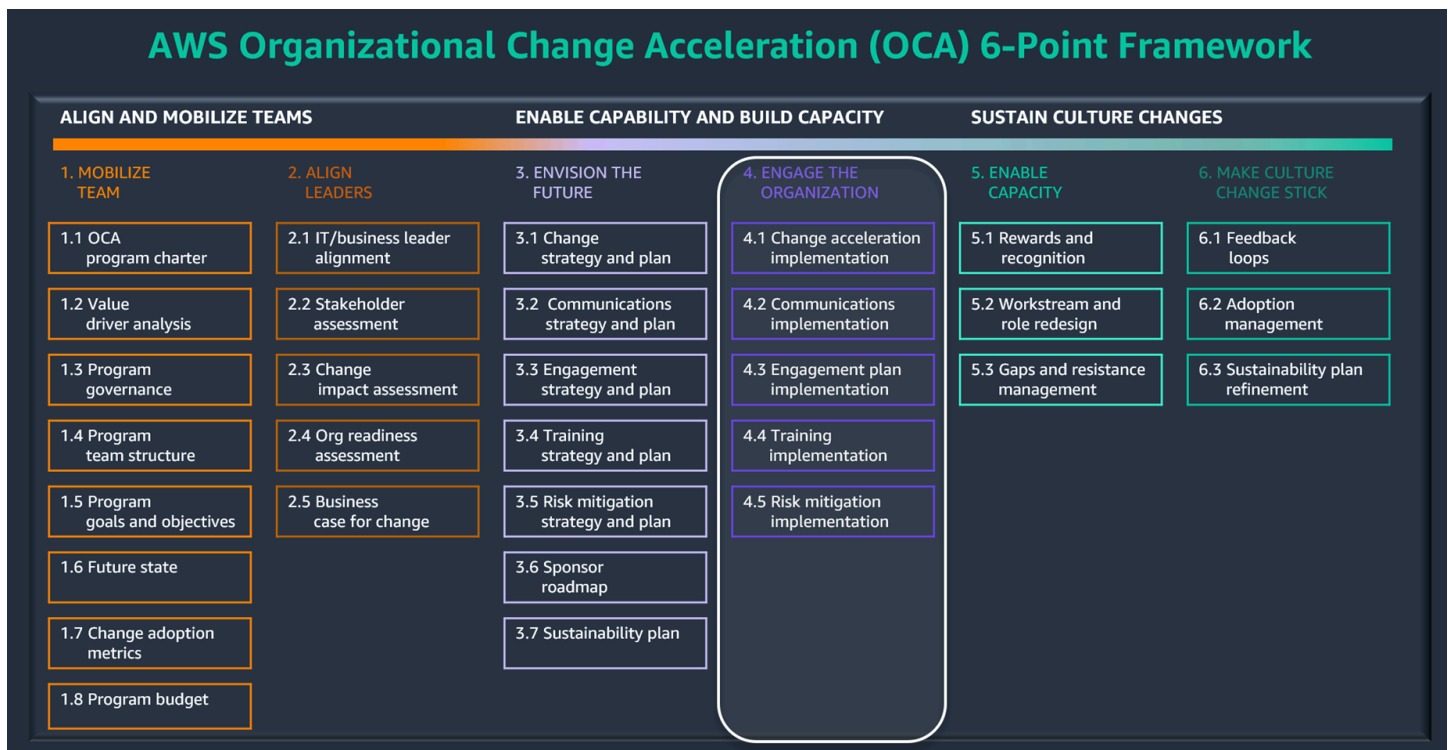
4.2 コミュニケーションプランの展開

4.3 エンゲージメントプランの展開

4.4 トレーニングプランの展開

4.5 リスク軽減の監視と管理

このセクションでは、組織のエンゲージとそのサブポイントの概要を説明します。詳細については、[AWS「Organizational Change Acceleration \(OCA\) 6-Point Framework – 4」のガイドを参照してください。組織を関与させます。](#)



4.1 変更管理計画の実施

説明

変更管理計画の実施には、変更戦略と計画で決められた活動を、体系的かつ詳細な方法で開始することが必要です。さらに、これらのアクティビティをチームのプロジェクト管理ツール内に文書化して、適切な時間、リソース、順序が統制のとれた方法で適用されるようにします。

有益である理由

変更管理計画の目的は、変更管理をクラウドトランスフォーメーションチームの活動と確実に連携させ、エグゼクティブスポンサーやリーダーからのコミットメントを確保し、影響を受ける利害関係者を特定して関与させるプロセスを開始することです。

活用場面

変更管理計画を実施する前に、すべてのタスクが考慮され、検証され、マスタープランに組み込まれていること、担当責任者 (responsible)、説明責任者 (accountable)、相談先 (consulted)、報告先 (informed) (RACI) マトリックスが完成していること、チームの組織構造が確立され、通知されていること、改革促進チームメンバーがそれぞれの役割について特定され、オンボーディングされ、適切に認証されていることを確認してください。プログラムをより広範なクラウドトランスフォーメーションと同期させ続けるには、使用しているプロジェクト管理またはアジャイルツールにタスクを統合するようにします。

Note

RACI マトリックスとは、プロジェクト内の役割と責任を定義して割り当てる表のことです。例えば、RACI を作成して、セキュリティコントロールの所有権を定義したり、トランスフォーメーションプロジェクト内の特定のタスクの役割と責任を特定したりできます。

4.2 コミュニケーションプランの展開

説明

このステップでは、コミュニケーション戦略と計画で特定されたアクティビティを開始する必要があります。目標は、コミュニケーションとメッセージが、クラウドトランスフォーメーションチームの活動、エグゼクティブスポンサーの声、指名されたリーダーや推進者のコミットメント、人事部や社内コミュニケーションチームとの協力関係と確実に一致するようにすることです。重要なメッセー

ジ、多様な意見、複数のチャネル、フィードバックループを通じて、利益とビジネス価値に重点を置き、ステークホルダー全体の関与を維持できます。

有益である理由

結果的に、コミュニケーションとメッセージがクラウドトランスフォーメーションチームの活動と確実に一致するようになります。クラウドトランスフォーメーションが加速、拡大、進化し、組織の入れ替わりが避けられない中、コミュニケーションの価値を過小評価することはできません。実際、一貫性がなかったり、時代遅れであったり、ターゲットを絞っていなかったりするコミュニケーションは、タイムラインの遅延、不信感、関係の悪化を招く可能性があります。組織によっては、トリクルダウンや段階的なコミュニケーション計画が必要な場合もあります。情報を階層的に、順番に伝える必要があるため、複雑になり、プロジェクト管理タスクも増えます。

活用場面

コミュニケーションプランは、少なくとも毎週追跡および更新される生きた文書でなければなりません。さらに、適切なレベルの品質保証、精査、正確性がすべてのコミュニケーションの一部となるように、コミュニケーションに必要な承認も追跡して文書化する必要があります。フィードバックメカニズムを使用して、エンゲージメント、メッセージの有効性、長さ、頻度、対象者について評価します。コミュニケーションの有効性に関するフィードバックは、他のクラウドトランスフォーメーションプログラムのレポートと合わせて毎月追跡できます。

4.3 エンゲージメントプランの展開

説明

前述したように、エンゲージメントプランは、個人、利害関係者グループ、組織がクラウドトランスフォーメーションによってもたらされる変化に対処する具体的な方法を説明する体系的なアプローチです。エンゲージメントプランの目的は、クラウドトランスフォーメーションから得られる望ましいビジネス上の成果に重要な利害関係者すべてがコミットし、それに集中できるようにすることです。エンゲージメント戦略で概説されているように、コミットメントモデルの優先順位とマッピングに従って関連情報を提供することで、各利害関係者グループを参加させ、関与させる必要があります。

有益である理由

エンゲージメントプランを展開するには、各利害関係者グループが変化のペースと量を積極的に管理して、変化の負担をかけすぎないようにする必要があります。そうすることで、現在の状態から将来の状態への移行が成功する可能性が最大化されます。エンゲージメントプランを系統的に展開することで、改革促進チームがあらゆる潜在的な障害を積極的に管理し、組織の賛同、コミットメント、変化に対する能力を構築するのにも役立ちます。

活用場面

エンゲージメントプランは、クラウドトランスフォーメーションプロジェクトのライフサイクル全体を通じて使用する必要があります。大規模な移行やモダナイゼーションなどの移行段階で使用したり、監視や報告のメカニズムとして定期的に使用したりして、利害関係者エンゲージメントプログラムを設定したり、組織の認識、理解、賛同やコミットメントを高めたりする必要があります。

4.4 トレーニングプランの展開

説明

前述したように、トレーニングプランとは、実施すべきトレーニングと、トレーニングを開発および実施するプロセスを明確にした文書のことです。トレーニングプランを展開するときは、組織の活動と一致するトレーニングの実施を検討してください。従業員の慣れたワークフローを妨げない有意義なトレーニングを行うと、抵抗が減り、従業員が変化に迅速に対応できるようになります。さらに、データ主導型のアプローチを使用して、[AWS Learning Needs Analysis](#) からトレーニングの好みを収集します。そして、これらの好みをトレーニングプランに適用することで、賛同を得ることができ、従業員にトレーニングを完了するよう促すことができます。

有益である理由

トレーニングプランを展開することは、クラウドでの運用に必要なトランスフォーメーションスキルを構築する上で有益です。さらに、適切な対象者を決定し、スケジュールとビジネス目標に合った方法でコースを系統的にスケジュールすることで、トレーニング予算を最大限に活用し、トレーニングイベントへの参加人数を確実に最大にします。

活用場面

プログラム全体を通してトレーニングプランを参考にして、組織のトレーニングニーズ、構築する必要があるスキル、四半期または月単位で提供するトレーニング、トレーニングツールの掲載先、トレーニングの宣伝方法、トレーニングの完了状況を測定および監視する方法を決定します。毎年、必要な新しいスキルと組織内の新しい人材に基づいて新しいトレーニングニーズを決定し、年間のトレーニング予算に合わせて新しいトレーニング計画を立てます。

4.5 リスク軽減の監視と管理

説明

前述したように、リスク軽減戦略と計画は、組織が潜在的なリスクにさらされることによる影響をタイムイングよく排除、軽減、または制御するように設計されています。リスク軽減の監視と管理とは、

大きな変化には潜在的なリスクや障害が数多く伴うことを認識した先を見越した対策のことで、リスクの解決には、エグゼクティブスポンサー、リーダー、推進者とのコミットメントと緊密な連携が必要です。

有益である理由

各リスクには、関連する確率と重大度という要素があります。リスクを監視することで、チームはクラウドトランスフォーメーションを妨げたり脱線させたりする可能性のある問題の数、それらが発生する可能性(確率)、結果がどれほど壊滅的になり得るか(重大度)をより正確に把握できます。リスクを積極的に検討し、監視する計画を立てることで、問題になる前にリスクを管理し、軽減することができます。

活用場面

プログラムの開始時にリスク軽減戦略と計画を立て、フォーマットを設計し、リスクの大きさを確認します。リスク軽減戦略と計画を定期的に見直し、必要に応じて更新します。計画を監視および管理し、結果をリーダーに報告して、追加の軽減措置を実施すべきかどうかを判断します。

ポイント 5. 能力を発揮させる

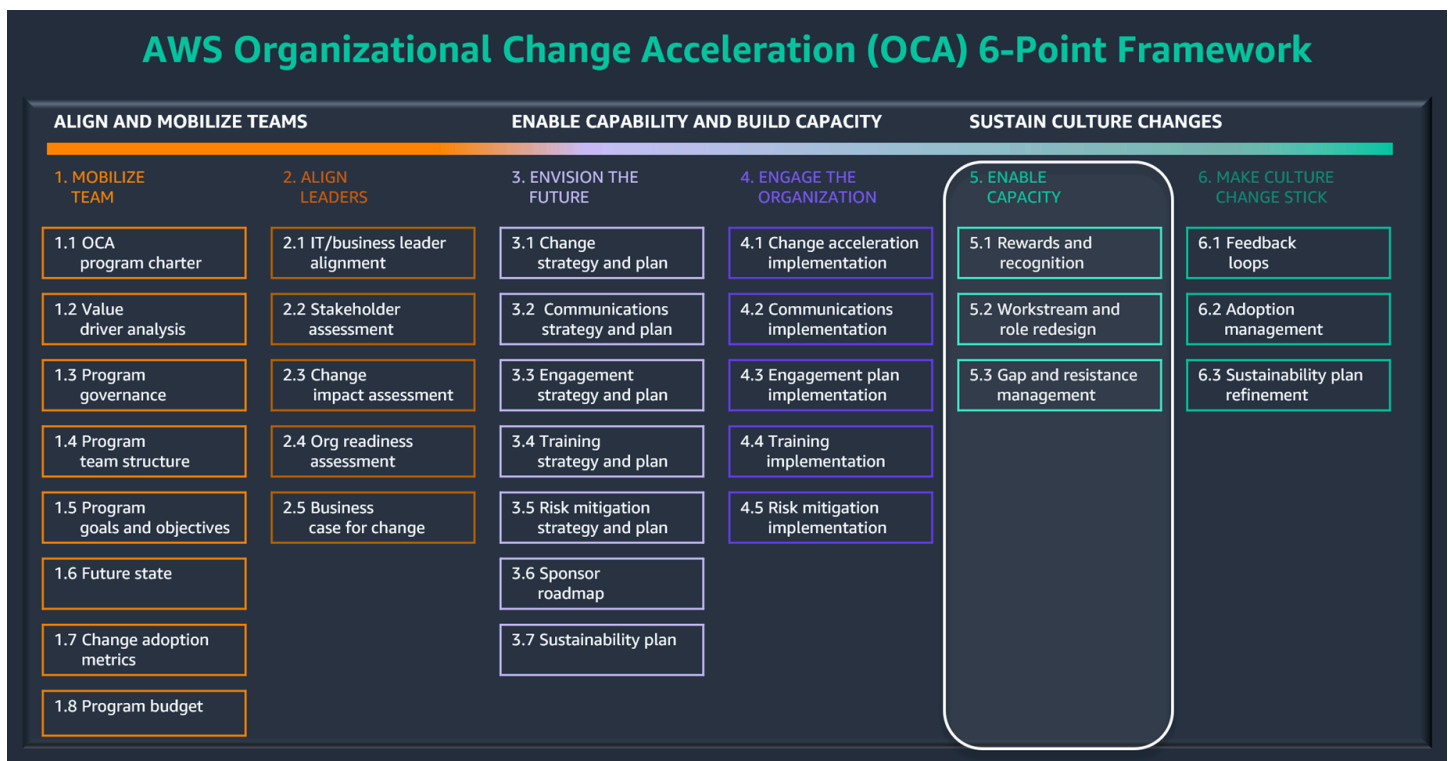
「能力を発揮させる」では、重要な行動に報酬を与えて表彰し、新しい能力に対するニーズと継続的な要件に合わせて役割を再設計し、その過程で生じる可能性のある利害関係者の抵抗を管理することで、変化に対する組織の牽引力を高めます。「能力を発揮させる」には次の3つのサブポイントがあります。

5.1 報酬を与え、表彰する

5.2 ワークストリームと役割を再設計する

5.3 ギャップについて話し合い、抵抗を管理する

このセクションでは、キャパシティの有効化とそのサブポイントの概要を説明します。詳細については、[AWS「Organizational Change Acceleration \(OCA\) 6-Point Framework – 5」](#)を参照してください。[キャパシティを有効にします。](#)



5.1 報酬を与え、表彰する

説明

報酬と表彰は、クラウドトランスフォーメーションを支援する重要な行動を浮き彫りにし、その行動を強化するためのメカニズムとなります。時間の経過とともに、新しい行動により新しい文化が組織全体に根付くでしょう。報酬とは、良い行動や、何らかの奉仕や業績と引き換えに与えられるものです。報酬は、正しい、または望ましい対応に対して与えられるもので、励みになるものでもあり、その対応を再度しようという気にさせることもあります。表彰とは、成果を強調した承認や、特別な通知、注目のことです。優れた報酬や表彰制度は人々を惹きつけます。それは、報酬や表彰の対象がわかり、報酬や表彰を受ける(あるいは与える)ことに満足感を感じ、参加したいと思うためです。しかし、研究によると、ある行動が人の通常のパターンに取り入れられるまでには約 20 回試してみることが必要とのことです。言い換えると、人々を報酬と表彰の文化に完全に馴染ませるには、組織に忍耐と一貫性の両方が必要です。

有益である理由

報酬と表彰は、良い仕事と新しい行動に対する評価につながります。従来の組織の従業員は、クラウドトランスフォーメーションに必要な特定の行動に反対するかもしれません。クラウドトランスフォーメーションという状況では、リーダーは以前の働き方とは一致しないかもしれない行動に報酬を与え、表彰すべきです。例えば、実験、フェイルファスト、顧客視点からの逆算、意思決定の分散化は、組織にとって新しい行動かもしれません。結果として、こうした行動を認めて報酬を与えることは、物事を変える必要があるというシグナルを効果的に伝えることができるでしょう。さらに、どのような取り組みも継続するためには、組織が報酬対効果 (ROR) を得ることができなければなりません。例えば、クラウドソリューションアーキテクト認定を取得した従業員にギフトカードを贈った場合、その従業員のスキルセットが向上すれば、ギフトカードに投資した金額よりも大きな価値が組織にもたらされます。

活用場面

さまざまな役割とレベルの参加者には、非公式な手段と公式な手段を組み合わせ、豊富に、かつタイミングよく報酬を与え、表彰する必要があります。報酬や表彰を受ける人、それを周りで見ている人が、行動とその行動がもたらすポジティブな結果を結びつけるためには、タイミングの良さが鍵となります。正式な報酬や表彰では、予測できるような確立された流れに従ってください。非公式な報酬や表彰は、その場限りのものでサプライズの要素を含んだものでなければなりません。

5.2 ワークストリームと役割を再設計する

説明

役割を再設計することで、将来の仕事における役割の変化を方向づけられるようになります。これは、組織内外の変化に合わせてタスクと責任を再構築するプロセスです。例えば、デジタル化と自動化は組織内の役割に影響を与える可能性があります。

有益である理由

クラウド移行とモダナイゼーションにおけるワークストリームと役割を再設計する目的は、将来の運用モデルで示されたワークストリームをサポートするために必要な役割を評価および設計することです。この活動は、再設計されたプロセスや新しいシステムへの移行に向けて組織を特定し、準備することに重点を置いています。また、従業員やエンドユーザーの役割、職務、ワークフロー、コンピテンシー、メトリクスを変更する可能性もあります。

活用場面

役割の再設計をいつ開始するかは、組織とクラウドトランスフォーメーションのスケジュールと目的によって異なります。年に数回役割を見直し、その結果として、新しい研修計画、後継者育成計画、雇用計画、能力開発計画を作成すると役立ちます。このアクティビティは、IT チーム、ビジネスチーム、人事チームのメンバーと一緒に実施する必要があります。AWS では特定の役割の[強化ガイド](#)を用意しており、クラウドジャーニーを進める企業やユーザーを支援しています。これらのガイドには、いつでもオンデマンドでアクセスできます。さらに、[クラウド運用モデルの構築](#) (または評価) が、クラウド変革に必要なステップになるかもしれません。

5.3 ギャップについて話し合い、抵抗を管理する

説明

変化へ抵抗することは人間の通常の反応ですが、その抵抗を管理することは組織的な課題となることがあります。改革促進戦略では、クラウドトランスフォーメーションの影響を受ける人々の準備状況を把握し、抵抗を最小限に抑えることを積極的に目指しています。変化への抵抗感を高める要因には、ビジョンが曖昧であること、メリットとビジネス価値についての理解が不十分であること、リーダーシップのサポートと関与が限られていること、組織のあらゆるレベルでのコミュニケーションが不十分であることなどがあります。こうした要因は、誤った情報、不安、疑念、無関心な態度につながり、そして最終的には何もしないようになる可能性があります。

有益である理由

抵抗のある分野を特定したら、深く掘り下げて根本原因と抵抗のある部分を特定し、是正措置計画を策定し、スポンサーやリーダーが抵抗に対処できるようにします。こうした行動より、摩擦が取り除かれ、クラウドトランスフォーメーションが停滞したり脱線したりするのを防ぐことができます。

活用場面

クラウドトランスフォーメーションプログラムのエグゼクティブスポンサーが同業他社との足並みを揃え、価値を伝え、推進し続けているなら、抵抗はほとんどありません。抵抗が起きた場合は、政治

的、論理的、感情的な観点に訴えるような方法で、戦略を立て、慎重に対応計画を立てます。強い抵抗を和らげたり、新しい戦略的取り組みでクラウドトランスフォーメーションを合理化したりするには、トップダウンのサポートを得ることが必要になる場合があります。

抵抗を効果的に管理するには:

- 反対意見に耳を傾け、理解する。
- 方法ではなく、対象に焦点を当てる。
- トランスフォーメーションの障壁を取り除く。
- シンプルで明確な選択肢と結果を示す。
- 希望を与える。
- メリットを現実的かつ具体的に示す。
- 個人的なアピールをする。
- 最も強い反対派に考えを変えさせ、広めてもらう。

ポイント 6. 文化の変化を定着させる

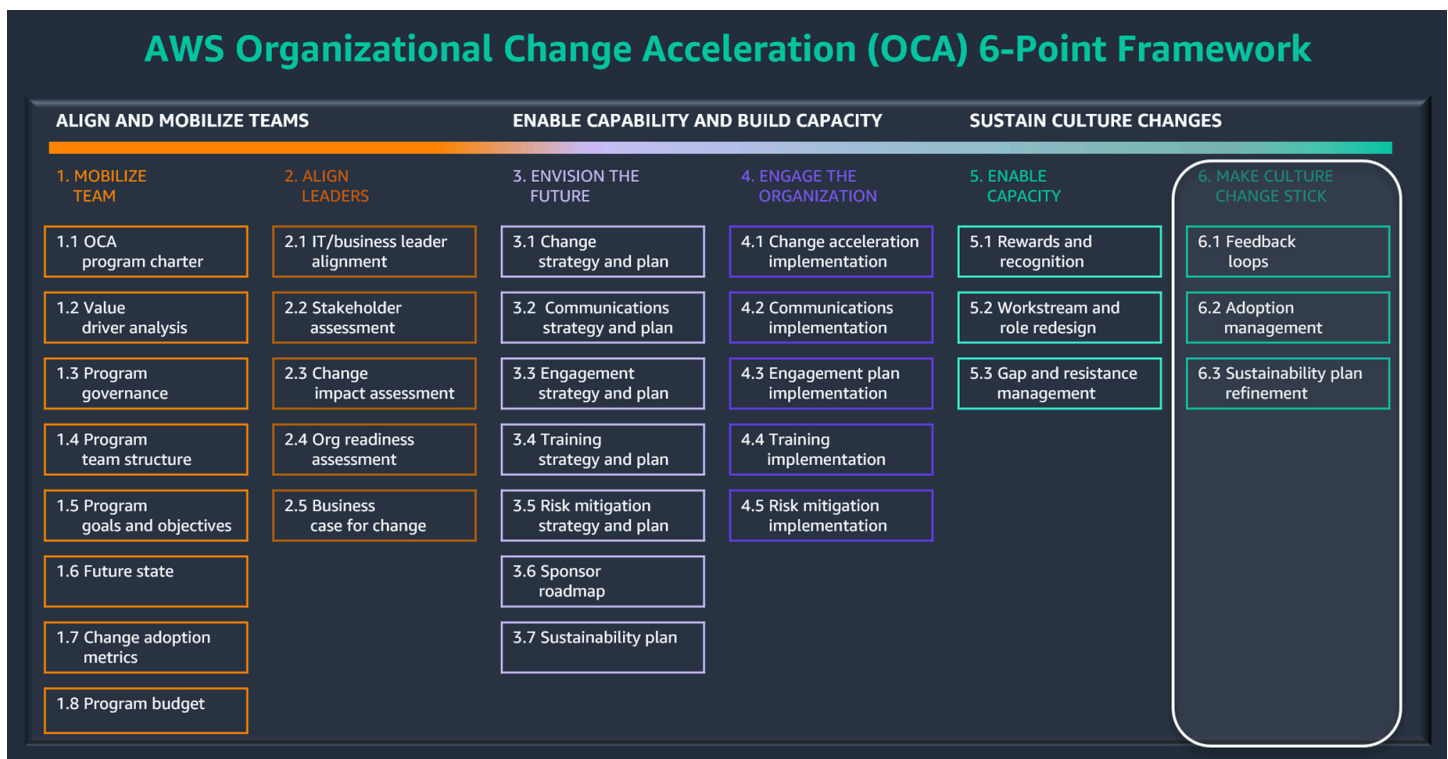
Make Culture Change Stick は、改革促進フレームワークを実践し、持続可能性を構築して、時間のテストを継続します。このワークストリームでは、反復可能なパターンや学んだ教訓に関するフィードバックループを作り、導入を積極的に管理し、実施後の計画と持続可能性計画を立てます。そうすることで、改革促進チームを解散させ、生み出された変化、行動、文化を運用的かつ受動的に (能動的ではなく) 管理できるようになります。Make Culture Changes Stick には 3 つのサブポイントがあります。

6.1 フィードバックループを確立する

6.2 導入管理チェックリストを作成する

6.3 実施後の計画と持続可能性計画を策定する

このセクションでは、Make Culture Change Stick とそのサブポイントの概要を説明します。詳細については、[AWS 「Organizational Change Acceleration \(O\) 6-Point Framework – 6」](#) を参照してください。文化の変化を定着させる。



6.1 フィードバックループを確立する

説明

フィードバックループにより、クラウドトランスフォーメーションによって生じる変化に健全かつ正確に対応する機会を従業員に与えることで、組織のパフォーマンスを調整できるようになります。フィードバックループの主な目的は、双方向の情報共有をサポートし、プロジェクト全体に主要な利害関係者を関与させ、コミュニケーションの有効性を監視するための情報を収集することです。フィードバックループに役立つチャンネルには、1対1の面談、フォーカスグループ、チーム、部門、スタッフのミーティング、エンゲージメントまたは組織の準備状況調査、コミュニケーションポータル、プロジェクトメールボックスなどがあります。組織がソーシャルメディアツールを使用している場合は、それらのチャンネルを監視して、コメント、センチメント、評価ボタン (Like、Dislike)、トラフィックなどの形でフィードバックを収集することもできます。

有益である理由

フィードバックループを確立することで、利害関係者からの正直な反応を収集し、実際のデータに基づいて改革促進の活動を洗練 (および継続的に改善) することができます。使いやすいツールがあれば、フィードバックを簡単に収集、分析し、クラウドトランスフォーメーション活動に組み込むことができます。ただし、フィードバックに基づいて行動し、フィードバックを受け取ったことを伝え、フィードバックの結果として行なわれた変更を明確にすれば、フィードバックループは強力かつ効果的になります。これにより、フィードバックの直接的な結果としてプログラムが改善され、間接的な結果として信頼を得られるようになります。

活用場面

理想的には、測定の一環としてフィードバックループを計画に組み込む必要があります。フィードバックプロセスを設計する際には、問い合わせやコメントに対応する適切な時間を決めます。フィードバックをするタイミングは、プログラムのスピードと流れと関連させて考えます。例えば、毎週、隔週、毎月のペースで収集されたフィードバックは、スクラムの振り返りミーティングへのインプットとして使用できます。

6.2 導入管理チェックリストを作成する

説明

導入管理チェックリストは、改革促進の活動の有効性を確認し、クラウドトランスフォーメーションの全体的な導入状況の評価するのに役立ちます。導入管理チェックリストは、リーダーや利害関係者が新しい[クラウド運用モデル](#)への移行に備え、関与し、そのメリットとビジネス価値を理解していることを確認します。このアクティビティでは、変更、コミュニケーション、リスク、トレーニングの戦略と計画を含め、すべての基本計画が策定され、実施が承認されていることを前提としています。

有益である理由

導入管理チェックリストは、クラウドトランスフォーメーションに関連する 8 つの主要な成功要因を追跡する上で役立ちます。成功要因とは、目に見える積極的なリーダーシップ、変化への強制的な必要性、方向性の明確さ、幅広い参加、的を絞った効果的なコミュニケーション、プログラムの焦点が 1 つであること、測定可能な目標、統制のとれたプロジェクト管理のことです。

活用場面

採用管理チェックリストを四半期ごとに見直すことで、クラウドトランスフォーメーションチームに中期的な計画期間が与えられ、必要に応じて調整を行うのに十分な柔軟性が生まれます。調査結果に基づいてアクションプランが作成されるので、定期的な (毎週または隔週) スクラム活動の一環として追跡できます。

6.3 実施後の計画と持続可能性計画を策定する

説明

実施後の計画および持続可能性計画とは、専任のクラウドトランスフォーメーションチームが解散した場合でも、組織が長期目標を達成するのに役立つ文書のことです。この計画の目的は、組織がクラウドトランスフォーメーションの取り組み後も人に関するメカニズムを維持できるようにすることです。

変化が持続し、定着し、持続可能であるようにするために、以下の点を考慮してください。

- 四半期ごとに変更スポンサーや他の上級管理者に報告することで、変化の測定を正式なものにします。
- 変更を従業員の業績計画や職務責任に組み込みます。
- フルタイムの社員の時間の一定割合を、変化の監視に充てます。
- 変更関連の活動を、年間業績計画やコンプライアンス研修計画など、他の正式なプロセスや方針と整合させます。

有益である理由

クラウドトランスフォーメーションプロセスの主要なステップ (移行やモダナイゼーションなど) が完了すると、さらなる変化が生じる可能性があります。こうした変化を維持するための長期的な戦略計画を立てることが不可欠です。例えば、組織の一部で文化や行動を変えると、別の部分でプロセスが変更されたり、他の事業部門でも同じ変更を繰り返す必要が生じる場合があります。

活用場面

すべてのクラウドトランスフォーメーションには、改革促進計画の利害関係者と実施者が多数関与します。変更プロジェクトの継続的な持続可能性に誰が関与すべきかを明確にすることが重要です。そうすれば、プロジェクトが正式に完了した後、定期的 (例えば、プロジェクトの期間に応じて3か月後、6か月後、12か月後) に所有者を再評価およびレビューする時間枠を設定できます。プロジェクトの要件によっては、変更を監視して評価するために、継続的な改善計画や進行中のレビュー計画を策定しなければならない場合もあります。継続的な改善計画には以下が含まれる場合があります。

- 目的
- ガバナンス体制
- 役割と責任
- イベント、レビュー、フィードバックセッションのカレンダー
- 成功の継続的測定

利害関係者の持続可能性を評価することに加えて、計画されたコミュニケーションが当初のクラウドトランスフォーメーション以降も継続されるようにします。コミュニケーションの推進者が移行を受け入れる準備ができていること、チームが十分なトレーニングを受け、タスクを遂行する時間があり、プログラムをサポートする技術的に準備が整っていることを確認してください。進行中のクラウド移行またはモダナイゼーションプロジェクトの終了時に、継続的なコミュニケーションを管理するための適切なリソースを特定します。考慮すべき主なアクションは次のとおりです。

- 移行計画を策定する。
- 継続的なコミュニケーションの推進者を決定する。
- コミュニケーションの推進者とミーティングを行い、役割、責任、階層、アクションアイテムの概要を説明する。
- 移行会議を実施し、次のステップを確認する。
- コミュニケーションロードマップを作成する。

さらに、クラウド移行やモダナイゼーション後に発見されたトレーニングのギャップにも対処する必要があります。主な考慮事項は次のとおりです。

- フィードバック、教訓、変更点をレビューする。
- 参加者からフィードバックを募る。
- 必要に応じて追加のトレーニング支援資料を作成する。

- 改善トレーニングプランを文書化する (例えば、新入社員向け研修、四半期ごとまたはイベント主導型トレーニングの再教育など)。
- 関連するすべてのトレーニング資料 (プロジェクト計画、監査および評価結果、トレーニング戦略、カリキュラムの概要、最終文書、評価フォームなど) のクラウドトランスフォーメーションアーカイブを作成する。
- 資料の更新と改訂の計画を立案する。

これらの活動を持続可能性計画の一部に組み込むと、組織内で変化がどの程度持続しているかをよりよく理解できるようになります。忍耐強く、粘り強く、データに基づいて、系統立てて行動することで、組織が持続可能性計画を順守できるようになります。

まとめ

ウォーターフォールフレームワークとアジャイルフレームワーク両方の改革促進に、6つのポイントを適用できます。変革は継続中: 新しいステークホルダー、スコープの変更、タイムラインの加速または延長により、クラウド変革の一環としてすでに完了しているポイントまで、チームがさかのぼって再評価する必要がある場合があります。改革促進の核となるのは反復です。ベストプラクティスとして、改革促進計画を継続的かつ反復的に評価、設計、テスト、改善することをお勧めします。

変革の成功は内部から生まれます。それは、リーダーや従業員がどのように振る舞い、考え、感じているか、職場環境がどのように構築されているか、プロセスがどのように構成されているか、技術がどのようにイノベーションを可能にするか、そして新しい働き方に合わせて文化をどのように進化させるかを考えることから始まります。エンタープライズの伝統とコアバリューを活用しながら、お客様のために継続的な改善と革新に注力している従業員を惹きつけ、維持し、力を与えるために、新しい行動と考え方を取り入れる必要があります。変革のフレームワークを適用して意図的なアプローチを行う改革促進の専任者がいれば、エンタープライズは反復的に一貫したエンタープライズ変更スキルを構築し、イノベーションの文化を育むことができます。

変革を持続させる鍵は、持続性と俊敏性です。改革促進の取り組みは、しばしばプロジェクト開始後に中止されることがあります。これは、新しい働き方が強化されなくなり、人々が以前の習慣に戻ってしまうためです。このような結果を回避するには、すべての主要な変革リーダーが、成功行動とそれに続く行動を持続する必要性を認識することが重要です。変革の事例で示されたビジョンと、そのビジョンを維持するための規範を改めて示す必要があります。変革強化戦略が適用されれば、その戦略が定着し、古い方法が新しい方法に置き換えられます。このサイクルは、組織が進化、革新、成長する中で繰り返されます。

よくある質問

6 ポイントフレームワークは新規顧客または新規移行のみを対象としていますか？

いいえ。6 ポイントフレームワークは、いつでもクラウドトランスフォーメーションジャーニーを加速させ、利害関係者の賛同を得て、すでに実施されているアクションの効果を高めることができます。

文化と改革におけるリーダーシップの促進とはどういう意味ですか？

文化と改革におけるリーダーシップの促進とは、組織、プロジェクト、個人をまたいで共通の現実を作り出し、導入を促進し、投資利益率 (ROI) を向上させることです。このアプローチにより、構造化され、統合され、透明性の高い、エビデンスに基づいたエンドツーエンドの変更プロセスを適用できるようになり、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えて最適な結果を得つつ、プロジェクトの完了時間を短縮できます。

文化と改革におけるリーダーシップの促進は、AWS チェンジアクセラレーションにおける 6 ポイントフレームワークと組織変更管理ツールキットに準ずるものです。これについては、この記事で詳しく説明しています。

クラウドの導入になぜ文化と改革を促進する必要があるのでしょうか？

クラウド移行やモダナイゼーションプロジェクトなどの AWS トランスフォーメーションでは、個人、プロジェクト、組織の 3 つのレベルでトランスフォーメーションを効果的に行うには、文化と改革の促進が必要です。

- 個人レベルでは、意識、希望、知識、能力を高め、クラウド内でそれらを強化することです。デジタル流暢さの向上、AWS トレーニングと認定のスキルの向上、メンタルモデルとそれに関連する行動のシフトです。
- プロジェクトレベルでは、クラウドジャーニーが人に及ぼす影響を予測して解決すること、つまり、ビジネスの中断を最小限に抑えて顧客のために成果を早く上げることが重要です。

組織レベルでは、リーダーの能力を高め、クラウドの管理方法を変える準備ができている企業を作ることです。つまり、共通の現実と、イノベーション、学習、継続的な成長という文化を生み出すことが重要です。

エグゼクティブスポンサーまたはリーダーとして、組織のクラウドジャーニーをさらに成功させるために何ができるでしょうか？

クラウドトランスフォーメーションは、コミュニケーション能力が高く、積極的に関与するリーダーが主導する場合に最も成功します。ビジョンへの集中力を失わず、プロジェクトのライフサイクル全体を通してアクティブで目に見える存在であり続けます。チームに力を与えるために、プロジェクトへのサポートを明確に示すことで、正面からリードします。また、変化における人的側面の重要性を理解し、それに対処するために適切な時間とリソースを積極的に投入することも重要です。

文化と改革におけるリーダーシップをアクティブなワークストリーム、または専門的領域と考えるべきでしょうか？この機能をクラウドチームに適用したり、人員を配置したりすべきでしょうか？

はい、文化と改革におけるリーダーシップは、組織の混乱を把握して軽減するために、水平方向と垂直方向の両方で機能します。実証済みの戦略を経営幹部レベルとプログラムレベルの両方で適用することで、変化が浸透し、受け入れられるようになります。改革促進スキルと経験を積んだ実務家をワークストリームやドメインに配置することで、クラウド導入の取り組みの効果を最大化し、組織的および政治的に抵抗がある分野を軽減し、変化を刺激的な企業文化の一部として根付かせることができます。

改革促進ワークストリームの代表的な役割には、経営幹部レベルで働く人事エグゼクティブアドバイザー、プログラムレベルで働く変更促進リーダー、提供品質を重視して両方のレベルで働くトランスフォーメーションエグゼクティブプログラムオーバーサイトリーダーなどがあります。これらに加えて、プロジェクトの範囲を決める際に特定する規模や複雑さによっては、他の役割も必要になる場合があります。これには、コミュニケーション、トレーニング、従業員エンゲージメント、準備、Cloud Center of Excellence (CCoE) の活動に関する専門知識を持つ人材配置の専門家が含まれる場合があります。リソースは、フルタイムまたはパートタイム、顧客内部、または AWS または を通じて外部スタッフを配置する場合があります AWS Partner。これらの役割を外部に置く場合は、改革促進の対象となるリソースと顧客リードとの間で知識を伝達できるようにすることをお勧めします。このアプローチにより、より迅速かつ永続的な展開と導入をサポートし、クラウドトランスフォーメーションの変化を持続的に所有する道が開かれます。

組織に文化と改革におけるリーダーシップの促進が必要かどうか、どうすればわかりますか？

デジタルトランスフォーメーションとクラウド移行、労働力の最適化と文化の向上、合併と買収、規制の変更という4つの世界的な業界動向が、改革促進の需要を後押ししています。これらの傾向は、最高の人材の採用、最高の顧客体験の提供、最高の製品とサービスの提供という目標を支えているため、ほとんどの組織の成長戦略の最優先事項となっています。

ただし、こうした傾向は組織の文化や日常業務の進め方に広範囲に影響を及ぼします。傾向をガイドラインとして活用して、組織がクラウドジャーニーにおいて現在どの段階にいるのかを特定し、プロジェクトをサポートするために文化と改革におけるリーダーシップの促進が必要かどうかを判断してください。

- デジタルトランスフォーメーションとクラウド移行: 情報の変革は、人々のデータへの関わり方や使用方法に広範な影響を及ぼします。
- 労働力の最適化と文化の向上: オンサイトコラボレーションとリモートコラボレーション、新しいツール、アメニティへの高頻度アクセスなど、労働力文化の変化には、デジタルフルエンシーが必要です。
- 合併と買収: 業務の中断を最小限に抑え、2つの文化を取り入れて相乗効果を実現します。
- 規制の変更: 変化に遅れずについていき、コンプライアンスを維持します (データ管理のデジタル化など)。

改革促進は組織にどのような価値をもたらしますか？

[Prosci](#) は、世界的な組織変革管理調査会社であり、過去20年間にわたって世界中の6,000社以上の企業を調査してきました。同社のデータによると、企業は強固な (良いものから優れたものまで) 変更フレームワークを適用すると、より良い成果を実現できることがわかっています。

変化において人的側面の管理を意図的に重視すると、価値の実現が最大600%向上することをリーダーは認識しています。プロジェクト全体で人的要素を正しく配置することで、ROIと価値の実現にプラスの相乗効果が得られ、プロジェクトがより楽しい従業員体験になります。(Prosciのウェブサイトの [The Value of Organizational Change Management for Project Managers](#) を参照してください。)

Accenture が公開したクラウドトランスフォーメーションに関する [改革促進の研究](#) では、組織の俊敏性とイノベーションの向上、ITとビジネスのコラボレーションの強化、クラウド移行の迅速化、カ

スタマーエクスペリエンスの向上、クラウド導入の増加、意思決定のためのデータ活用の向上、コスト削減の達成、新しい事業分野を立ち上げるスピードや効率の向上という8つの側面から1,100の組織を調査しました。このレポートでは、テクノロジーのみを重視していると答えたリーダーの結果と、テクノロジーと人材の両方を重視していると答えたリーダーの結果を比較しています。人材を重視して取り組みを管理したリーダーは、あらゆる面でより良い成果を達成しました。この人的要素を適切に配置すると、明らかな相乗効果があります。

自分の役割に積極的に取り組み、安心感を感じている従業員は、知識、スキル、自信、人脈を築くことができます。そうすれば、雇用主はIT部門とビジネス部門のより強固なコラボレーションを構築できるようになり、その結果、クラウド移行の迅速化、クラウド導入の促進、効率の向上、コスト削減が可能になります。こうした特徴はすべて、デジタルフルエンジャーとイノベーションある確立された文化に表れており、これが最高の人材の獲得に役立ちます。

次のステップ

クラウドでの成功に向けて組織の態勢を整えるためには、文化と改革におけるリーダーシップの促進に集中する必要があります。本書をお読みいただき、プログラマティックな改革促進のメリットを理解したら、以下の主要ステップに沿って、組織のクラウドトランスフォーメーションとクラウド導入のジャーニーを加速させましょう。

1. トランスフォーメーションの取り組みを特定します。
2. 目標とするビジネス成果とタイムラインを決めます。
3. プログラムを推進するリーダーと、プログラムに参加してその影響を受けることになる人々を特定します。
4. 本書で解説した6つのポイントを推進する「改革促進」リーダーを特定します。
5. 計画、ツール、テンプレート、サイクルを整理してプログラムのフレームワークを作成します。

リソース

改革促進と、組織の変革管理に関する詳しい情報は、以下のリソースを参照してください。

AWS Change Acceleration 6-Pointフレームワークガイド

- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 1。チームの準備](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 2。リーダーの連携](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 3。未来を思い描く](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 4。組織を関与させる](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 5。能力を発揮させる](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 6。文化の変化を定着させる](#)

AWS リソース

- [AWS カスタマー有効化](#)
- [AWS Executive Insights](#)
- [AWS マネージドサービス](#)
- [AWS Partner Network](#)
- [AWS \[プロフェッショナルサービス\]](#)
- [AWS ランプアップガイド](#)
- [Amazon Web Services へ移行](#)
- [Migration Readiness Assessment \(MRA\)](#)

AWS ブログ投稿、記事、ポッドキャスト、動画

- [エントリレベルのクラウド人材に投資する 4 つの理由 \(AWS トレーニングと認定ブログ\)](#)
- [文化、変化、リーダーシップによるクラウド導入の促進 \(AWS 規範ガイダンス\)](#)
- [Amazon 文化の内部: 実験、失敗、カスタマーオブセッション \(Industry ブログAWS 用\)](#)
- [AWS リーダーとの会話ポッドキャスト \(AWS Executive Insights\)](#)
- [AWS エンタープライズストラテジスト \(AWS Executive Insights\)](#)

- [クラウド運用モデルの構築](#) (AWS 規範ガイド)
- [市民により良いサービスを提供するためのイノベーションの文化の構築](#) (AWS パブリックセクターブログ)
- [Digital Transformation: Lead with Culture, Enable with Technology](#) (AWS Executive Insights)
- [Amazon 1 日目の文化の要素](#) (AWS Executive Insights)
- [失敗と学習文化の創造](#) (AWS クラウドエンタープライズ戦略ブログ)
- [データ駆動型の文化を作成する方法](#) (AWS クラウドエンタープライズ戦略ブログ)
- [クラウドトランスフォーメーション中に組織の変化と文化への影響を管理する方法](#) (ビデオ、AWS オンライン Tech Talks)
- [クラウドでのジョブロール](#) (セルフペースコース、AWS トレーニングと認定)
- [最高人事責任者 - CIO の変更におけるパートナー](#) (AWS クラウドエンタープライズ戦略ブログ)
- [CPO-CIO パートナーシップパート 2: 手袋の取り外し](#) (AWS クラウドエンタープライズ戦略ブログ)
- [ワークフォースと文化 進化するワークフォースを支える戦略と技術](#) (AWS Executive Insights)
- [ワークフォース開発: 未来のワークフォースの構築](#) (AWS 公共部門)

その他のリソース

- [4 Ways CIOs Can Foster Digital Dexterity](#) (Gartner)
- [A Leader's Framework for Decision Making](#) (Harvard Business Review)
- [Best Practices in Change Management](#) (Prosci)
- [Change Management Needs to Change](#) (Harvard Business Review)
- [Developing leadership capabilities](#) (McKinsey & Company)
- [Getting practical about the future of work](#) (McKinsey & Company)
- [Leading Change: Why Transformation Efforts Fail](#) (Harvard Business Review)
- [の最新のアプリケーション AWS](#) (すべてのモノが分散)
- [Modern Cloud Champions](#) (Accenture)
- [Psychological safety and the critical role of leadership development](#) (McKinsey & Company)
- [Staffing Your Enterprise's Cloud Center of Excellence](#) (Medium)
- [The Future of Leadership Development](#) (Harvard Business Review)

- [Turning Potential into Success: The Missing Link in Leadership Development](#) (Harvard Business Review)
- [What's missing in leadership development?](#) (McKinsey & Company)
- [Your Enterprise's Flywheel to the Cloud](#) (Medium ウェブサイト)

ドキュメント履歴

以下の表は、本ガイドの重要な変更点について説明したものです。今後の更新に関する通知を受け取る場合は、[RSS フィード](#) をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
リンクを追加しました	この概要全体で新しい "6 ポイントフレームワークガイド" へのリンクを追加し、グラフィックスを更新しました。	2025 年 2 月 28 日
初版発行	—	2022 年 10 月 17 日

AWS 規範ガイドの用語集

以下は、AWS 規範ガイドが提供する戦略、ガイド、パターンで一般的に使用される用語です。エントリを提案するには、用語集の最後のフィードバックの提供リンクを使用します。

数字

7 Rs

アプリケーションをクラウドに移行するための7つの一般的な移行戦略。これらの戦略は、ガートナーが2011年に特定した5Rsに基づいて構築され、以下で構成されています。

- リファクタリング/アーキテクチャの再設計 — クラウドネイティブ特徴を最大限に活用して、俊敏性、パフォーマンス、スケーラビリティを向上させ、アプリケーションを移動させ、アーキテクチャを変更します。これには、通常、オペレーティングシステムとデータベースの移植が含まれます。例: オンプレミスの Oracle データベースを Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションに移行する。
- リプラットフォーム (リフトアンドリシェイプ) — アプリケーションをクラウドに移行し、クラウド機能を活用するための最適化レベルを導入します。例: お客様のオンプレミスの Oracle データベースを AWS クラウドの Oracle 用の Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) に移行する。
- 再購入 (ドロップアンドショップ) — 通常、従来のライセンスから SaaS モデルに移行して、別の製品に切り替えます。例: 顧客関係管理 (CRM) システムを Salesforce.com に移行する。
- リホスト (リフトアンドシフト) — クラウド機能を活用するための変更を加えずに、アプリケーションをクラウドに移行します。例: お客様のオンプレミスの Oracle データベースを AWS クラウドの EC2 インスタンス上の Oracle に移行する。
- 再配置 (ハイパーバイザーレベルのリフトアンドシフト) — 新しいハードウェアを購入したり、アプリケーションを書き換えたり、既存の運用を変更したりすることなく、インフラストラクチャをクラウドに移行できます。オンプレミスプラットフォームから同じプラットフォームのクラウドサービスにサーバーを移行します。例: Microsoft Hyper-Vアプリケーションをに移行します AWS。
- 保持 (再アクセス) — アプリケーションをお客様のソース環境で保持します。これには、主要なリファクタリングを必要とするアプリケーションや、お客様がその作業を後日まで延期したいアプリケーション、およびそれらを行き移るためのビジネス上の正当性がないため、お客様が保持するレガシーアプリケーションなどがあります。
- 廃止 — お客様のソース環境で不要になったアプリケーションを停止または削除します。

A

ABAC

[「属性ベースのアクセス制御」](#)をご覧ください。

抽象化されたサービス

[「マネージドユーザー」](#)をご覧ください。

ACID

[「原子性、一貫性、分離性、耐久性 \(ACID\)」](#)をご覧ください。

アクティブ/アクティブ移行

(双方向レプリケーションツールまたは二重書き込み操作を使用して) ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させ、移行中に両方のデータベースが接続アプリケーションからのトランザクションを処理するデータベース移行方法。この方法では、1 回限りのカットオーバーの必要がなく、管理された小規模なバッチで移行できます。[アクティブ/パッシブ移行](#)よりも柔軟な方法ですが、さらに多くの作業が必要となります。

アクティブ/パッシブ移行

ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させながら、データがターゲットデータベースにレプリケートされている間、接続しているアプリケーションからのトランザクションをソースデータベースのみで処理するデータベース移行方法。移行中、ターゲットデータベースはトランザクションを受け付けません。

集計関数

複数行に処理を行い、グループ全体を対象に単一の戻り値を計算する SQL 関数。集計関数の例としては、SUM や MAX などがあります。

AI

[「人工知能」](#)をご覧ください。

AIOps

[「AI オペレーション」](#)をご覧ください。

匿名化

データセット内の個人情報を完全に削除するプロセス。匿名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。匿名化されたデータは、もはや個人データとは見なされません。

アンチパターン

繰り返し起こる問題に対して頻繁に用いられる解決策で、その解決策が逆効果であったり、効果がなかったり、代替案よりも効果が低かったりするもの。

アプリケーション制御

マルウェアからシステムを保護するために、承認されたアプリケーションのみを使用できるようにするセキュリティアプローチ。

アプリケーションポートフォリオ

アプリケーションの構築と維持にかかるコスト、およびそのビジネス価値を含む、組織が使用する各アプリケーションに関する詳細情報の集まり。この情報は、[ポートフォリオの検出と分析プロセス](#)の重要な要素であり、移行、モダナイズ、最適化するアプリケーションを特定し、優先順位を付けるのに役立ちます。

人工知能 (AI)

コンピューティングテクノロジーを使用し、学習、問題の解決、パターンの認識など、通常は人間に関連づけられる認知機能の実行に特化したコンピュータサイエンスの分野。詳細については、「[人工知能 \(AI\) とは何ですか?](#)」をご覧ください。

AI オペレーション (AIOps)

機械学習技術を使用して運用上の問題を解決し、運用上のインシデントと人の介入を減らし、サービス品質を向上させるプロセス。AWS 移行戦略での AIOps の使用方法については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

非対称暗号化

暗号化用のパブリックキーと復号用のプライベートキーから成る 1 組のキーを使用した、暗号化のアルゴリズム。パブリックキーは復号には使用されないため共有しても問題ありませんが、プライベートキーの利用は厳しく制限する必要があります。

原子性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID)

エラー、停電、その他の問題が発生した場合でも、データベースのデータ有効性と運用上の信頼性を保証する一連のソフトウェアプロパティ。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC)

部署、役職、チーム名など、ユーザーの属性に基づいてアクセス許可をきめ細かく設定する方法。詳細については、AWS Identity and Access Management (IAM) ドキュメントの「[の ABAC AWS](#)」を参照してください。

信頼できるデータソース

最も信頼性のある情報源とされるデータのプライマリーバージョンを保存する場所。匿名化、編集、仮名化など、データを処理または変更する目的で、信頼できるデータソースから他の場所にデータをコピーすることができます。

アベイラビリティゾーン (AZ)

他のアベイラビリティゾーンの障害から AWS リージョン 隔離され、同じリージョン内の他のアベイラビリティゾーンへの低コストで低レイテンシーのネットワーク接続を提供する 内の別の場所。

AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF)

組織がクラウドへの移行を成功させるための効率的で効果的な計画を立てるための、このガイドラインとベストプラクティスのフレームワークです。AWS CAF は、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用という 6 つの重点分野にガイダンスを整理しています。ビジネス、人材、ガバナンスの観点では、ビジネススキルとプロセスに重点を置き、プラットフォーム、セキュリティ、オペレーションの視点は技術的なスキルとプロセスに焦点を当てています。例えば、人材の観点では、人事 (HR)、人材派遣機能、および人材管理を扱うステークホルダーを対象としています。この観点から、AWS CAF は、クラウド導入を成功させるための組織の準備に役立つ人材開発、トレーニング、コミュニケーションのガイダンスを提供します。詳細については、[AWS CAF ウェブサイト](#)と [AWS CAF のホワイトペーパー](#) を参照してください。

AWS ワークロード認定フレームワーク (AWS WQF)

データベース移行ワークロードを評価し、移行戦略を推奨し、作業見積もりを提供するツール。AWS WQF は AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT) に含まれています。データベーススキーマとコードオブジェクト、アプリケーションコード、依存関係、およびパフォーマンス特性を分析し、評価レポートを提供します。

B

不正なボット

個人や組織に混乱や損害を与えることを目的とした [ボット](#)。

BCP

「[ビジネス継続性計画 \(BCP\)](#)」をご覧ください。

動作グラフ

リソースの動作とインタラクションを経時的に示した、一元的なインタラクティブビュー。Amazon Detective の動作グラフを使用すると、失敗したログオンの試行、不審な API 呼び出し、その他同様のアクションを調べることができます。詳細については、Detective ドキュメントの「[動作グラフのデータ](#)」を参照してください。

ビッグエンディアンシステム

最上位バイトを最初に格納するシステム。「[エンディアン性](#)」もご覧ください。

二項分類

バイナリ結果 (2 つの可能なクラスのうちの一つ) を予測するプロセス。例えば、お客様の機械学習モデルで「この E メールはスパムですか、それともスパムではありませんか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。または「この製品は書籍ですか、車ですか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。

ブルームフィルター

要素がセットのメンバーであるかどうかをテストするために使用される、確率的でメモリ効率の高いデータ構造。

ブルー/グリーンデプロイ

それぞれが独立しているが、同一の環境を 2 つ作成するデプロイ戦略。現在のアプリケーションバージョンを 1 つの環境 (ブルー) で実行し、新しいアプリケーションバージョンを別の環境 (グリーン) で実行します。この戦略は、最小限の影響で迅速にロールバックするのに役立ちます。

ボット

インターネット経由で自動タスクを実行し、人間のアクティビティややり取りをシミュレートするソフトウェアアプリケーション。インターネット上の情報のインデックスを作成するウェブクローラーなど、一部のボットは有用または有益です。悪質なボットと呼ばれる他のボットの中には、個人や組織を混乱させたり、損害を与えたりすることを意図したものもあります。

ボットネット

[マルウェア](#)に感染しており、ボットハーダーまたはボットオペレーターと呼ばれる単一の当事者によって制御されている[ボット](#)のネットワーク。ボットネットは、ボットとその影響力を拡大する仕組みとして、非常によく知られています。

ブランチ

コードリポジトリに含まれる領域。リポジトリに最初に作成するブランチは、メインブランチといます。既存のブランチから新しいブランチを作成し、その新しいブランチで機能を開発した

り、バグを修正したりできます。機能を構築するために作成するブランチは、通常、機能ブランチと呼ばれます。機能をリリースする準備ができたなら、機能ブランチをメインブランチに統合します。詳細については、「[ブランチの概要](#)」(GitHub ドキュメント)を参照してください。

ブレイクグラスアクセス

例外的な状況では、承認されたプロセスを通じて、ユーザーが AWS アカウント 通常アクセス許可を持たないにすばやくアクセスできるようにします。詳細については、AWS Well-Architected ガイドの「[ブレイクグラス手順の実装](#)」インジケータを参照してください。

ブラウнフィールド戦略

環境の既存インフラストラクチャ。システムアーキテクチャにブラウнフィールド戦略を導入する場合、現在のシステムとインフラストラクチャの制約に基づいてアーキテクチャを設計します。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウнフィールド戦略と[グリーンフィールド](#)戦略を融合させることもできます。

バッファキャッシュ

アクセス頻度が最も高いデータが保存されるメモリ領域。

ビジネス能力

価値を生み出すためにビジネスが行うこと (営業、カスタマーサービス、マーケティングなど)。マイクロサービスのアーキテクチャと開発の決定は、ビジネス能力によって推進できます。詳細については、[AWSでのコンテナ化されたマイクロサービスの実行](#)ホワイトペーパーの「[ビジネス機能を中心に組織化](#)」セクションを参照してください。

ビジネス継続性計画 (BCP)

大規模移行など、中断を伴うイベントが運用に与える潜在的な影響に対処し、ビジネスを迅速に再開できるようにする計画。

C

CAF

「[AWS クラウド導入フレームワーク](#)」を参照してください

カナリアデプロイ

エンドユーザーへのバージョンリリースを、時間をかけて段階的に行うこと。確信が持てたら新規バージョンをデプロイして、現在のバージョン全体を置き換えます。

CCoE

「[Cloud Center of Excellence](#)」を参照してください。

CDC

「[変更データキャプチャ](#)」を参照してください。

変更データキャプチャ (CDC)

データソース (データベーステーブルなど) の変更を追跡し、その変更に関するメタデータを記録するプロセス。CDC は、ターゲットシステムでの変更を監査またはレプリケートして同期を維持するなど、さまざまな目的に使用できます。

カオスエンジニアリング

障害や破壊的なイベントを意図的に導入して、システムの耐障害性をテストすること。[AWS Fault Injection Service \(AWS FIS\)](#) を使用して、AWS ワークロードにストレスを与え、その応答を評価する実験を実行できます。

CI/CD

「[継続的インテグレーションと継続的デリバリー](#)」を参照してください。

分類

予測を生成するのに役立つ分類プロセス。分類問題の機械学習モデルは、離散値を予測します。離散値は、常に互いに区別されます。例えば、モデルがイメージ内に車があるかどうかを評価する必要がある場合があります。

クライアント側の暗号化

ターゲットが AWS のサービス 受信する前に、ローカルでデータを暗号化します。

Cloud Center of Excellence (CCoE)

クラウドのベストプラクティスの作成、リソースの移動、移行のタイムラインの確立、大規模変革を通じて組織をリードするなど、組織全体のクラウド導入の取り組みを推進する学際的なチーム。詳細については、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログの [CCoE 投稿](#) を参照してください。

クラウドコンピューティング

リモートデータストレージと IoT デバイス管理に通常使用されるクラウドテクノロジー。クラウドコンピューティングは、一般的に、[エッジコンピューティング](#) に接続されています。

クラウド運用モデル

IT 組織において、1 つ以上のクラウド環境を構築、成熟、最適化するために使用される運用モデル。詳細については、「[クラウド運用モデルの構築](#)」を参照してください。

導入のクラウドステージ

組織が、AWS クラウドへの移行時に通常実行する 4 つの段階。

- プロジェクト — 概念実証と学習を目的として、クラウド関連のプロジェクトをいくつか実行する
- 基礎固め — お客様のクラウドの導入を拡大するための基礎的な投資 (ランディングゾーン の作成、CCoE の定義、運用モデルの確立など)
- 移行 — 個々のアプリケーションの移行
- 再発明 — 製品とサービスの最適化、クラウドでのイノベーション

これらのステージは、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログのブログ記事「[クラウドファーストへのジャーニー](#)」と「[導入のステージ](#)」で Stephen Orban によって定義されました。移行戦略との関連性については、AWS「[移行準備ガイド](#)」を参照してください。

CMDB

「[構成管理データベース \(CMDB\)](#)」を参照してください。

コードリポジトリ

ソースコードやその他の資産 (ドキュメント、サンプル、スクリプトなど) が保存され、バージョン管理プロセスを通じて更新される場所。一般的なクラウドリポジトリには、GitHub や Bitbucket Cloud があります。コードの各バージョンはブランチと呼ばれます。マイクロサービスの構造では、各リポジトリは 1 つの機能専用です。1 つの CI/CD パイプラインで複数のリポジトリを使用できます。

コールドキャッシュ

空である、または、かなり空きがある、もしくは、古いデータや無関係なデータが含まれているバッファキャッシュ。データベースインスタンスはメインメモリまたはディスクから読み取る必要があり、バッファキャッシュから読み取るよりも時間がかかるため、パフォーマンスに影響します。

コールドデータ

めったにアクセスされず、通常は過去のデータです。この種類のデータをクエリする場合、通常は低速なクエリでも問題ありません。このデータを低パフォーマンスで安価なストレージ階層またはクラスに移動すると、コストを削減することができます。

コンピュータビジョン (CV)

機械学習を使用してデジタルイメージやビデオといった、ビジュアル形式の情報を分析および抽出する [AI](#) の分野。例えば、Amazon SageMaker AI では、CV 用の画像処理アルゴリズムを利用できます。

設定ドリフト

ワークロードにおいて、設定が想定した状態から変化すること。これによって、ワークロードが非準拠になる可能性があります。この状態は、徐々に生じ、意図的なものではありません。

構成管理データベース (CMDB)

データベースとその IT 環境 (ハードウェアとソフトウェアの両方のコンポーネントとその設定を含む) に関する情報を保存、管理するリポジトリ。通常、CMDB のデータは、移行のポートフォリオの検出と分析の段階で使用します。

コンフォーマンスパック

コンプライアンスチェックとセキュリティチェックをカスタマイズするためにアセンブルできる AWS Config ルールと修復アクションのコレクション。YAML テンプレートを使用して、コンフォーマンスパックを AWS アカウント および リージョンの単一のエンティティとしてデプロイすることも、組織全体にデプロイすることもできます。詳細については、AWS Config ドキュメントの「[コンフォーマンスパック](#)」を参照してください。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)

ソフトウェアリリースプロセスのソース、ビルド、テスト、ステージング、本番の各ステージを自動化するプロセス。CI/CD は一般的にパイプラインと呼ばれます。プロセスの自動化、生産性の向上、コード品質の向上、配信の加速化を可能にします。詳細については、「[継続的デリバリーの利点](#)」を参照してください。CD は継続的デプロイ (Continuous Deployment) の略語でもあります。詳細については「[継続的デリバリーと継続的なデプロイ](#)」を参照してください。

CV

[「コンピュータビジョン」](#) を参照してください。

D

保管中のデータ

ストレージ内にあるデータなど、常に自社のネットワーク内にあるデータ。

データ分類

ネットワーク内のデータを重要度と機密性に基づいて識別、分類するプロセス。データに適した保護および保持のコントロールを判断する際に役立つため、あらゆるサイバーセキュリティのリスク管理戦略において重要な要素です。データ分類は、AWS Well-Architected フレームワークのセキュリティの柱のコンポーネントです。詳細については、「[データ分類](#)」を参照してください。

データドリフト

実稼働データと ML モデルのトレーニングに使用されたデータとの間に有意な差異が生じたり、入力データが時間の経過と共に有意に変化したりすることです。データドリフトは、ML モデル予測の全体的な品質、精度、公平性を低下させる可能性があります。

転送中のデータ

ネットワーク内 (ネットワークリソース間など) を活発に移動するデータ。

データメッシュ

非一元的で分散型のデータ所有権を持つとともに、一元的な管理およびガバナンスを行えるアーキテクチャフレームワーク。

データ最小化

厳密に必要なデータのみを収集し、処理するという原則。でデータ最小化を実践 AWS クラウドすることで、プライバシーリスク、コスト、分析のカーボンフットプリントを削減できます。

データ境界

AWS 環境内の一連の予防ガードレール。信頼できる ID のみが、期待されるネットワークから信頼できるリソースにアクセスできるようにします。詳細については、「[AWS でのデータ境界の構築](#)」を参照してください。

データの前処理

raw データをお客様の機械学習モデルで簡単に解析できる形式に変換すること。データの前処理とは、特定の列または行を削除して、欠落している、矛盾している、または重複する値に対処することを意味します。

データ出所

データの生成、送信、保存の方法など、データのライフサイクル全体を通じてデータの出所と履歴を追跡するプロセス。

データ件名

データを収集、処理している個人。

データウェアハウス

分析などのビジネスインテリジェンスをサポートするデータ管理システム。データウェアハウスには、一般的に、大量の履歴データが含まれており、多くの場合、それらはクエリや分析に使用されます。

データベース定義言語 (DDL)

データベース内のテーブルやオブジェクトの構造を作成または変更するためのステートメントまたはコマンド。

データベース操作言語 (DML)

データベース内の情報を変更 (挿入、更新、削除) するためのステートメントまたはコマンド。

DDL

「[データベース定義言語](#)」を参照してください。

ディープアンサンブル

予測のために複数の深層学習モデルを組み合わせます。ディープアンサンブルを使用して、より正確な予測を取得したり、予測の不確実性を推定したりできます。

深層学習

人工ニューラルネットワークの複数層を使用して、入力データと対象のターゲット変数の間のマッピングを識別する機械学習サブフィールド。

多層防御

一連のセキュリティメカニズムとコントロールをコンピュータネットワーク全体に層状に重ねて、ネットワークとその内部にあるデータの機密性、整合性、可用性を保護する情報セキュリティの手法。この戦略を採用するときは AWS、AWS Organizations 構造の異なるレイヤーに複数のコントロールを追加して、リソースの安全性を確保します。たとえば、多層防御アプローチでは、多要素認証、ネットワークセグメンテーション、暗号化を組み合わせることができます。

委任管理者

では AWS Organizations、互換性のあるサービスが AWS メンバーアカウントを登録して組織のアカウントを管理し、そのサービスのアクセス許可を管理できます。このアカウントを、そのサービスの委任管理者と呼びます。詳細、および互換性のあるサービスの一覧は、AWS

Organizations ドキュメントの「[AWS Organizationsで利用できるサービス](#)」を参照してください。

トラブルシューティング

アプリケーション、新機能、コードの修正をターゲットの環境で利用できるようにするプロセス。デプロイでは、コードベースに変更を施した後、アプリケーションの環境でそのコードベースを構築して実行します。

開発環境

「[環境](#)」を参照してください。

検出管理

イベントが発生したときに、検出、ログ記録、警告を行うように設計されたセキュリティコントロール。これらのコントロールは副次的な防衛手段であり、実行中の予防的コントロールをすり抜けたセキュリティイベントをユーザーに警告します。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[検出的コントロール](#)」を参照してください。

開発バリューストリームマッピング (DVSM)

ソフトウェア開発ライフサイクルのスピードと品質に悪影響を及ぼす制約を特定し、優先順位を付けるために使用されるプロセス。DVSM は、もともとリーンマニファクチャリング・プラクティスのために設計されたバリューストリームマッピング・プロセスを拡張したものです。ソフトウェア開発プロセスを通じて価値を創造し、動かすために必要なステップとチームに焦点を当てています。

デジタルツイン

建物、工場、産業機器、生産ラインなど、現実世界のシステムを仮想的に表現したものです。デジタルツインは、予知保全、リモートモニタリング、生産最適化をサポートします。

ディメンションテーブル

[スタースキーマ](#)において、ファクトテーブルの定量データに関するデータ属性が含まれる小さいテーブル。ディメンションテーブルの属性は、通常、テキストフィールド、またはテキストのように扱える個別の数値で示されます。これらの属性は、一般的に、クエリの制約、フィルタリング、結果セットのラベル付けに使用されます。

デザスタ

ワークロードまたはシステムが、導入されている主要な場所でのビジネス目標の達成を妨げるイベント。これらのイベントは、自然災害、技術的障害、または意図しない設定ミスやマルウェア攻撃などの人間の行動の結果である場合があります。

ディザスタリカバリ (DR)

[ディザスタ](#)によるダウンタイムとデータ損失を最小限に抑えるための戦略とプロセス。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[Disaster Recovery of Workloads on AWS: Recovery in the Cloud](#)」を参照してください。

DML

「[データベース操作言語](#)」を参照してください。

ドメイン駆動型設計

各コンポーネントが提供している変化を続けるドメイン、またはコアビジネス目標にコンポーネントを接続して、複雑なソフトウェアシステムを開発するアプローチ。この概念は、エリック・エヴァンスの著書、Domain-Driven Design: Tackling Complexity in the Heart of Software (ドメイン駆動設計:ソフトウェアの中心における複雑さへの取り組み) で紹介されています (ポストン: Addison-Wesley Professional、2003)。strangler fig パターンでドメイン駆動型設計を使用する方法の詳細については、「[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)」を参照してください。

DR

「[ディザスタリカバリ](#)」を参照してください。

ドリフト検出

ベースライン設定からの偏差を追跡します。たとえば、AWS CloudFormation を使用して[システムリソースのドリフトを検出](#)したり、を使用して AWS Control Tower、ガバナンス要件への準拠に影響する[ランディングゾーンの変更を検出](#)したりできます。

DVSM

「[開発バリューSTREAMマッピング](#)」を参照してください。

E

EDA

「[探索的データ分析](#)」を参照してください。

EDI

「[電子データ交換](#)」を参照してください。

エッジコンピューティング

IoT ネットワークのエッジにあるスマートデバイスの計算能力を高めるテクノロジー。[クラウドコンピューティング](#)と比較すると、エッジコンピューティングは通信レイテンシーを短縮し、応答時間を改善できます。

電子データ交換 (EDI)

組織間で行う、ビジネスドキュメントの自動交換。詳細については、[「電子データ交換とは」](#)を参照してください。

暗号化

人間が読み取り可能なプレーンテキストデータを暗号文に変換するコンピューティング処理。

暗号化キー

暗号化アルゴリズムが生成した、ランダム化されたビットからなる暗号文字列。キーの長さは決まっておらず、各キーは予測できないように、一意になるように設計されています。

エンディアン

コンピュータメモリにバイトが格納される順序。ビッグエンディアンシステムでは、最上位バイトが最初に格納されます。リトルエンディアンシステムでは、最下位バイトが最初に格納されます。

エンドポイント

[「サービスエンドポイント」](#)を参照してください。

エンドポイントサービス

仮想プライベートクラウド (VPC) 内でホストして、他のユーザーと共有できるサービス。を使用してエンドポイントサービスを作成し AWS PrivateLink、他の AWS アカウント または AWS Identity and Access Management (IAM) プリンシパルにアクセス許可を付与できます。これらのアカウントまたはプリンシパルは、インターフェイス VPC エンドポイントを作成することで、エンドポイントサービスにプライベートに接続できます。詳細については、Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) ドキュメントの [「エンドポイントサービスを作成する」](#)を参照してください。

エンタープライズリソースプランニング (ERP)

エンタープライズの主要なビジネスプロセス (会計、[MES](#)、プロジェクト管理など) を自動化および管理するシステム。

エンベロープ暗号化

暗号化キーを、別の暗号化キーを使用して暗号化するプロセス。詳細については、AWS Key Management Service (AWS KMS) ドキュメントの「[エンベロープ暗号化](#)」を参照してください。

環境

実行中のアプリケーションのインスタンス。クラウドコンピューティングにおける一般的な環境の種類は以下のとおりです。

- 開発環境 — アプリケーションのメンテナンスを担当するコアチームのみが利用できる、実行中のアプリケーションのインスタンス。開発環境は、上位の環境に昇格させる変更をテストするときに使用します。このタイプの環境は、テスト環境と呼ばれることもあります。
- 下位環境 — 初期ビルドやテストに使用される環境など、アプリケーションのすべての開発環境。
- 本番環境 — エンドユーザーがアクセスできる、実行中のアプリケーションのインスタンス。CI/CD パイプラインでは、本番環境が最後のデプロイ環境になります。
- 上位環境 — コア開発チーム以外のユーザーがアクセスできるすべての環境。これには、本番環境、本番前環境、ユーザー承認テスト環境などが含まれます。

エピック

アジャイル方法論で、お客様の作業の整理と優先順位付けに役立つ機能カテゴリ。エピックでは、要件と実装タスクの概要についてハイレベルな説明を提供します。例えば、AWS CAF セキュリティエピックには、ID とアクセスの管理、検出コントロール、インフラストラクチャセキュリティ、データ保護、インシデント対応が含まれます。AWS 移行戦略のエピックの詳細については、[プログラム実装ガイド](#)を参照してください。

ERP

「[エンタープライズリソース計画](#)」を参照してください。

探索的データ分析 (EDA)

データセットを分析してその主な特性を理解するプロセス。お客様は、データを収集または集計してから、パターンの検出、異常の検出、および前提条件のチェックのための初期調査を実行します。EDA は、統計の概要を計算し、データの可視化を作成することによって実行されます。

F

ファクトテーブル

[スタースキーマ](#)の中央にあるテーブル。ビジネスオペレーションに関する定量的データが保存されます。一般的に、ファクトテーブルは、2種類の列で構成されます。1つは測定値が含まれる列、もう1つはディメンションテーブルへの外部キーが含まれる列です。

フェイルファスト

開発ライフサイクルを短縮するために、頻繁かつ段階的にテストを行う哲学であり、アジャイルアプローチでは、この考え方がきわめて重要です。

障害分離境界

では AWS クラウド、アベイラビリティゾーン AWS リージョン、コントロールプレーン、データプレーンなどの境界で、障害の影響を制限し、ワークロードの耐障害性を向上させるのに役立ちます。詳細については、「[AWS 障害分離境界](#)」を参照してください。

機能ブランチ

「[ブランチ](#)」を参照してください。

特徴量

お客様が予測に使用する入力データ。例えば、製造コンテキストでは、特徴量は製造ラインから定期的にキャプチャされるイメージの可能性もあります。

特徴量重要度

モデルの予測に対する特徴量の重要性。これは通常、Shapley Additive Deskonations (SHAP) や積分勾配など、さまざまな手法で計算できる数値スコアで表されます。詳細については、「[を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS](#)」を参照してください。

機能変換

追加のソースによるデータのエンリッチ化、値のスケーリング、単一のデータフィールドからの複数の情報セットの抽出など、機械学習プロセスのデータを最適化すること。これにより、機械学習モデルはデータの恩恵を受けることができます。例えば、「2021-05-27 00:15:37」の日付を「2021年」、「5月」、「木」、「15」に分解すると、学習アルゴリズムがさまざまなデータコンポーネントに関連する微妙に異なるパターンを学習するのに役立ちます。

数ショットプロンプト

[LLM](#) に、タスクと望ましい出力を示す例を少数提示した後に、類似のタスクを実行させること。この手法は、プロンプトに記述された例(ショット)からモデルが学習する「インコンテキスト学

習」の一種です。数ショットプロンプトは、特定のフォーマット、推論、専門知識が必要なタスクに効果的です。「[ゼロショットプロンプト](#)」も参照してください。

FGAC

「[きめ細かなアクセス制御](#)」を参照してください。

きめ細かなアクセス制御 (FGAC)

複数の条件を使用してアクセス要求を許可または拒否すること。

フラッシュカット移行

[変更データのキャプチャ](#)による継続的なデータ複製を利用して、段階的なアプローチではなく、可能な限り短時間でデータを移行するデータベース移行方法。目的はダウンタイムを最小限に抑えることです。

FM

「[基盤モデル](#)」を参照してください。

基盤モデル (FM)

大規模な深層学習ニューラルネットワークであり、一般化およびラベル付けされていないデータからなる大規模データセットでトレーニングされています。FMにより、言語理解、テキストおよび画像生成、自然言語での会話といった、一般的な各種タスクを実行できます。詳細については、「[基盤モデルとは何ですか?](#)」を参照してください。

G

生成 AI

[AI](#) モデルのサブセット。大量のデータでトレーニングされており、シンプルなテキストプロンプトを使用して、画像、動画、テキスト、オーディオなどの新しいコンテンツやアーティファクトを作成できます。詳細については、「[生成 AI とは何ですか?](#)」を参照してください。

ジオブロッキング

「[地理的制限](#)」を参照してください。

地理的制限 (ジオブロッキング)

特定の国のユーザーがコンテンツ配信にアクセスできないようにするための、Amazon CloudFront のオプション。アクセスを許可する国と禁止する国は、許可リストまたは禁止リスト

を使って指定します。詳細については、CloudFront ドキュメントの「[コンテンツの地理的ディストリビューションの制限](#)」を参照してください。

Gitflow ワークフロー

下位環境と上位環境が、ソースコードリポジトリでそれぞれ異なるブランチを使用する方法。Gitflow ワークフローは古いと見なされている方法であり、[トランクベースのワークフロー](#)は推奨されている新しい方法です。

ゴールデンイメージ

システムまたはソフトウェアのスナップショットであり、システムまたはソフトウェアの新規インスタンスをデプロイするテンプレートとして使用されます。製造の例で言えば、ゴールデンイメージを使用すると、複数のデバイスにソフトウェアをプロビジョニングして、デバイス製造オペレーションの速度、スケーラビリティ、生産性を向上させることができます。

グリーンフィールド戦略

新しい環境に既存のインフラストラクチャが存在しないこと。システムアーキテクチャにグリーンフィールド戦略を導入する場合、既存のインフラストラクチャ (別名 [ブラウンフィールド](#)) との互換性の制約を受けることなく、あらゆる新しいテクノロジーを選択できます。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウンフィールド戦略とグリーンフィールド戦略を融合させることもできます。

ガードレール

組織単位 (OU) 全般のリソース、ポリシー、コンプライアンスを管理するのに役立つ概略的なルール。予防ガードレールは、コンプライアンス基準に一致するようにポリシーを実施します。これらは、サービスコントロールポリシーと IAM アクセス許可の境界を使用して実装されます。検出ガードレールは、ポリシー違反やコンプライアンス上の問題を検出し、修復のためのアラートを発信します。これらは AWS Config、AWS Security Hub CSPM、Amazon GuardDuty、AWS Trusted Advisor Amazon Inspector、およびカスタム AWS Lambda チェックを使用して実装されます。

H

HA

「[高可用性](#)」を参照してください。

異種混在データベースの移行

別のデータベースエンジンを使用するターゲットデータベースへお客様の出典データベースの移行 (例えば、Oracle から Amazon Aurora)。異種間移行は通常、アーキテクチャの再設計作業の一部であり、スキーマの変換は複雑なタスクになる可能性があります。[AWS は、スキーマの変換に役立つ AWS SCTを提供します。](#)

高可用性 (HA)

課題や災害が発生した場合に、介入なしにワークロードを継続的に運用できること。HA システムは、自動的にフェイルオーバーし、一貫して高品質のパフォーマンスを提供し、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えながらさまざまな負荷や障害を処理するように設計されています。

ヒストリアンのモダナイゼーション

製造業のニーズによりよく応えるために、オペレーションテクノロジー (OT) システムをモダナイズし、アップグレードするためのアプローチ。ヒストリアンは、工場内のさまざまなソースからデータを収集して保存するために使用されるデータベースの一種です。

ホールドアウトデータ

[機械学習](#)モデルのトレーニング用データセットから保留される、ラベル付き履歴データの一部。ホールドアウトデータを使用すると、モデル予測をホールドアウトデータと比較して、モデルのパフォーマンスを評価できます。

同種データベースの移行

お客様の出典データベースを、同じデータベースエンジンを共有するターゲットデータベース (Microsoft SQL Server から Amazon RDS for SQL Server など) に移行する。同種間移行は、通常、リホストまたはリプラットフォーム化の作業の一部です。ネイティブデータベースユーティリティを使用して、スキーマを移行できます。

ホットデータ

リアルタイムデータや最近の翻訳データなど、頻繁にアクセスされるデータ。通常、このデータには高速なクエリ応答を提供する高性能なストレージ階層またはクラスが必要です。

ホットフィックス

本番環境の重大な問題を修正するために緊急で配布されるプログラム。緊急性が高いため、通常の DevOps のリリースワークフローからは外れた形で実施されます。

ハイパーケア期間

カットオーバー直後、移行したアプリケーションを移行チームがクラウドで管理、監視して問題に対処する期間。通常、この期間は 1~4 日です。ハイパーケア期間が終了すると、アプリケーションに対する責任は一般的に移行チームからクラウドオペレーションチームに移ります。

I

laC

「[Infrastructure as Code](#)」を参照してください。

ID ベースのポリシー

AWS クラウド 環境内のアクセス許可を定義する 1 つ以上の IAM プリンシパルにアタッチされたポリシー。

アイドル状態のアプリケーション

90 日間の平均的な CPU およびメモリ使用率が 5~20% のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するか、オンプレミスに保持するのが一般的です。

IIoT

「[インダストリアル IoT](#)」を参照してください。

イミュータブルインフラストラクチャ

既存インフラストラクチャの更新、パッチ適用、変更などを行わずに、本番環境ワークロードに使用する新規インフラストラクチャをデプロイするモデル。本質的に、イミュータブルインフラストラクチャは、[ミュータブルインフラストラクチャ](#)よりも一貫性、信頼性、予測性に優れています。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークにある「[イミュータブルインフラストラクチャを使用してデプロイする](#)」のベストプラクティスを参照してください。

インバウンド (受信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーションの外部からネットワーク接続を受け入れ、検査し、ルーティングする VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

I

増分移行

アプリケーションを1回ですべてカットオーバーするのではなく、小さい要素に分けて移行するカットオーバー戦略。例えば、最初は少数のマイクロサービスまたはユーザーのみを新しいシステムに移行する場合があります。すべてが正常に機能することを確認できたら、残りのマイクロサービスやユーザーを段階的に移行し、レガシーシステムを廃止できるようにします。この戦略により、大規模な移行に伴うリスクが軽減されます。

インダストリー 4.0

2016年に [Klaus Schwab](#) 氏が提唱した用語で、接続、リアルタイムデータ、オートメーション、分析、AI/MLの進歩による、ビジネスプロセスのモダナイズを意味します。

インフラストラクチャ

アプリケーションの環境に含まれるすべてのリソースとアセット。

Infrastructure as Code (IaC)

アプリケーションのインフラストラクチャを一連の設定ファイルを使用してプロビジョニングし、管理するプロセス。IaCは、新しい環境を再現可能で信頼性が高く、一貫性のあるものにするため、インフラストラクチャを一元的に管理し、リソースを標準化し、スケールを迅速に行えるように設計されています。

インダストリアル IoT (IIoT)

製造、エネルギー、自動車、ヘルスケア、ライフサイエンス、農業などの産業部門におけるインターネットに接続されたセンサーやデバイスの使用。詳細については、「[インダストリアル IoT \(IIoT\) デジタルトランスフォーメーション戦略の構築](#)」を参照してください。

インスペクション VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、VPC (同一または異なる内 AWS リージョン)、インターネット、オンプレミスネットワーク間のネットワークトラフィックの検査を管理する一元化された VPCs。 [AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

IoT

インターネットまたはローカル通信ネットワークを介して他のデバイスやシステムと通信する、センサーまたはプロセッサが組み込まれた接続済み物理オブジェクトのネットワーク。詳細については、「[IoT とは](#)」を参照してください。

解釈可能性

機械学習モデルの特性で、モデルの予測がその入力にどのように依存するかを人間が理解できる度合いを表します。詳細については、[「を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS」](#)を参照してください。

IoT

[「IoT」](#)を参照してください。

IT 情報ライブラリ (ITIL)

IT サービスを提供し、これらのサービスをビジネス要件に合わせるための一連のベストプラクティス。ITIL は ITSM の基盤を提供します。

IT サービス管理 (ITSM)

組織の IT サービスの設計、実装、管理、およびサポートに関連する活動。クラウドオペレーションと ITSM ツールの統合については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

ITIL

[「IT 情報ライブラリ」](#)を参照してください。

ITSM

[「IT サービス管理」](#)を参照してください。

L

ラベルベースアクセス制御 (LBAC)

強制アクセス制御 (MAC) の実装で、ユーザーとデータ自体にそれぞれセキュリティラベル値が明示的に割り当てられます。ユーザーセキュリティラベルとデータセキュリティラベルが交差する部分によって、ユーザーに表示される行と列が決まります。

ランディングゾーン

ランディングゾーンは、スケーラブルで安全な、適切に設計されたマルチアカウント AWS 環境です。これは、組織がセキュリティおよびインフラストラクチャ環境に自信を持ってワークロードとアプリケーションを迅速に起動してデプロイできる出発点です。ランディングゾーンの詳細については、[「安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ」](#)を参照してください。

大規模言語モデル (LLM)

大量のデータで事前トレーニングされた深層学習 AI モデル。LLM では、質問への回答、ドキュメントの要約、他言語へのテキスト翻訳、文を完成させるなど、さまざまなタスクを実行できます。詳細については、「[大規模言語モデル \(LLM\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

大規模な移行

300 台以上のサーバの移行。

LBAC

「[ラベルベースアクセス制御](#)」を参照してください。

最小特権

タスクの実行には必要最低限の権限を付与するという、セキュリティのベストプラクティス。詳細については、IAM ドキュメントの「[最小特権アクセス許可を適用する](#)」を参照してください。

リフトアンドシフト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リトルエンディアンシステム

最下位バイトを最初に格納するシステム。「[エンディアン性](#)」もご覧ください。

LLM

「[大規模言語モデル](#)」を参照してください。

下位環境

「[環境](#)」を参照してください。

M

機械学習 (ML)

パターン認識と学習にアルゴリズムと手法を使用する人工知能の一種。ML は、モノのインターネット (IoT) データなどの記録されたデータを分析して学習し、パターンに基づく統計モデルを生成します。詳細については、「[機械学習](#)」を参照してください。

メインブランチ

「[ブランチ](#)」を参照してください。

マルウェア

コンピュータのセキュリティやプライバシーを侵害するように設計されたソフトウェア。マルウェアは、コンピュータシステムの中断、機密情報の漏洩、不正アクセスを招く可能性があります。マルウェアの例には、ウイルス、ワーム、ランサムウェア、トロイの木馬、スパイウェア、キーロガーなどがあります。

マネージドサービス

AWS のサービスはインフラストラクチャレイヤー、オペレーティングシステム、プラットフォーム AWS を運用し、エンドポイントにアクセスしてデータを保存および取得します。マネージドサービスの例として、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) と Amazon DynamoDB が挙げられます。このサービスは、抽象化されたサービスとも呼ばれます。

製造実行システム (MES)

生産プロセスを追跡、モニタリング、文書化、制御するソフトウェアシステムであり、工場では、これによって、原材料から製品を完成させます。

MAP

[「Migration Acceleration Program」](#) を参照してください。

メカニズム

ツールを作成してその導入を推進し、導入結果を調べて調整を行うための包括的なプロセス。メカニズムとは、運用中にそれ自体を強化し改善するサイクルを意味します。詳細については、AWS 「Well-Architected フレームワーク」の [「メカニズムの構築」](#) を参照してください。

メンバーアカウント

組織の一部である管理アカウント AWS アカウント 以外のすべて AWS Organizations。アカウントが組織のメンバーになることができるのは、一度に 1 つのみです。

MES

[「製造実行システム」](#) を参照してください。

Message Queuing Telemetry Transport (MQTT)

[発行/サブスクリプション](#)のパターンに基づく、軽量のマシンツーマシン (M2M) 通信プロトコルであり、リソースに限りのある [IoT](#) デバイスに使用されます。

マイクロサービス

明確に定義された API を介して通信し、通常は小規模な自己完結型のチームが所有する、小規模で独立したサービスです。例えば、保険システムには、販売やマーケティングなどのビジネス

機能、または購買、請求、分析などのサブドメインにマッピングするマイクロサービスが含まれる場合があります。マイクロサービスの利点には、俊敏性、柔軟なスケーリング、容易なデプロイ、再利用可能なコード、回復力などがあります。詳細については、[AWS「サーバーレスサービスを使用したマイクロサービスの統合」](#)を参照してください。

マイクロサービスアーキテクチャ

各アプリケーションプロセスをマイクロサービスとして実行する独立したコンポーネントを使用してアプリケーションを構築するアプローチ。これらのマイクロサービスは、軽量 API を使用して、明確に定義されたインターフェイスを介して通信します。このアーキテクチャの各マイクロサービスは、アプリケーションの特定の機能に対する需要を満たすように更新、デプロイ、およびスケーリングできます。詳細については、「[でのマイクロサービスの実装 AWS](#)」を参照してください。

Migration Acceleration Program (MAP)

組織がクラウドに移行するための強力な運用基盤を構築し、移行の初期コストを相殺するのに役立つコンサルティングサポート、トレーニング、サービスを提供する AWS プログラム。MAP には、組織的な方法でレガシー移行を実行するための移行方法論と、一般的な移行シナリオを自動化および高速化する一連のツールが含まれています。

大規模な移行

アプリケーションポートフォリオの大部分を次々にクラウドに移行し、各ウェーブでより多くのアプリケーションを高速に移動させるプロセス。この段階では、以前の段階から学んだベストプラクティスと教訓を使用して、移行ファクトリー チーム、ツール、プロセスのうち、オートメーションとアジャイルデリバリーによってワークロードの移行を合理化します。これは、[AWS 移行戦略](#) の第 3 段階です。

移行ファクトリー

自動化された俊敏性のあるアプローチにより、ワークロードの移行を合理化する部門横断的なチーム。移行ファクトリーチームには、通常、運用、ビジネスアナリストおよび所有者、移行エンジニア、デベロッパー、およびスプリントで作業する DevOps プロフェッショナルが含まれます。エンタープライズアプリケーションポートフォリオの 20~50% は、ファクトリーのアプローチによって最適化できる反復パターンで構成されています。詳細については、このコンテンツセットの[移行ファクトリーに関する解説](#)と[Cloud Migration Factory ガイド](#)を参照してください。

移行メタデータ

移行を完了するために必要なアプリケーションおよびサーバーに関する情報。移行パターンごとに、異なる一連の移行メタデータが必要です。移行メタデータの例としては、ターゲットサブネット、セキュリティグループ、AWS アカウントなどがあります。

移行パターン

移行戦略、移行先、および使用する移行アプリケーションまたはサービスを詳述する、反復可能な移行タスク。例: AWS Application Migration Service を使用して Amazon EC2 への移行をリホストします。

Migration Portfolio Assessment (MPA)

オンラインツール。これによって、AWS クラウドに移行するビジネスケースの検証に必要な情報を得られます。MPA は、詳細なポートフォリオ評価 (サーバーの適切なサイジング、価格設定、TCO 比較、移行コスト分析) および移行プラン (アプリケーションデータの分析とデータ収集、アプリケーションのグループ化、移行の優先順位付け、およびウェーブプランニング) を提供します。[MPA ツール](#) (ログインが必要) は、すべての AWS コンサルタントと APN パートナー コンサルタントが無料で利用できます。

移行準備状況評価 (MRA)

AWS CAF を使用して、組織のクラウド準備状況に関するインサイトを取得し、長所と短所を特定し、特定されたギャップを埋めるためのアクションプランを構築するプロセス。詳細については、[移行準備状況ガイド](#)を参照してください。MRA は、[AWS 移行戦略](#)の第一段階です。

移行戦略

ワークロードを AWS クラウドに移行するために使用するアプローチ。詳細については、この用語集の [7 Rs](#) エントリと、「[組織を動員して大規模な移行を加速する](#)」を参照してください。

ML

「[機械学習](#)」を参照してください。

モダナイゼーション

古い (レガシーまたはモノリシック) アプリケーションとそのインフラストラクチャをクラウド内の俊敏で弾力性のある高可用性システムに変換して、コストを削減し、効率を高め、イノベーションを活用します。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションのモダナイズ戦略](#)」を参照してください。

モダナイゼーション準備状況評価

組織のアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を判断し、利点、リスク、依存関係を特定し、組織がこれらのアプリケーションの将来の状態をどの程度適切にサポートできるかを決定するのに役立つ評価。評価の結果として、ターゲットアーキテクチャのブループリント、モダナイゼーションプロセスの開発段階とマイルストーンを詳述したロードマップ、特定されたギャップに対処するためのアクションプランが得られます。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を評価する](#)」を参照してください。

モノリシックアプリケーション (モノリス)

緊密に結合されたプロセスを持つ単一のサービスとして実行されるアプリケーション。モノリシックアプリケーションにはいくつかの欠点があります。1つのアプリケーション機能エクスペリエンスの需要が急増する場合は、アーキテクチャ全体をスケーリングする必要があります。モノリシックアプリケーションの特徴を追加または改善することは、コードベースが大きくなると複雑になります。これらの問題に対処するには、マイクロサービスアーキテクチャを使用できます。詳細については、「[モノリスをマイクロサービスに分解する](#)」を参照してください。

MPA

「[Migration Portfolio Assessment](#)」を参照してください。

MQTT

「[Message Queuing Telemetry Transport](#)」を参照してください。

多クラス分類

複数のクラスの予測を生成するプロセス (2 つ以上の結果の 1 つを予測します)。例えば、機械学習モデルが、「この製品は書籍、自動車、電話のいずれですか?」または、「このお客様にとって最も関心のある商品のカテゴリはどれですか?」と聞くかもしれません。

ミュータブルなインフラストラクチャ

本番ワークロードに使用する既存のインフラストラクチャを更新および変更するためのモデル。Well-Architected AWS フレームワークでは、一貫性、信頼性、予測可能性を向上させるために、[イミュータブルインフラストラクチャ](#)の使用をベストプラクティスとして推奨しています。

O

OAC

「[オリジンアクセス制御](#)」を参照してください。

OAI

「[オリジンアクセスアイデンティティ](#)」を参照してください。

OCM

「[組織変更管理](#)」を参照してください。

オフライン移行

移行プロセス中にソースワークロードを停止させる移行方法。この方法はダウンタイムが長くなるため、通常は重要ではない小規模なワークロードに使用されます。

OI

「[オペレーション統合](#)」を参照してください。

Ola

「[オペレーショナルレベルアグリーメント](#)」を参照してください。

オンライン移行

ソースワークロードをオフラインにせずにターゲットシステムにコピーする移行方法。ワークロードに接続されているアプリケーションは、移行中も動作し続けることができます。この方法はダウンタイムがゼロから最小限で済むため、通常は重要な本番稼働環境のワークロードに使用されます。

OPC-UA

「[Open Process Communications - Unified Architecture](#)」を参照してください。

Open Process Communications - Unified Architecture (OPC-UA)

産業オートメーション用のマシンツーマシン (M2M) 通信プロトコル。OPC-UA により、相互運用の際に、データ暗号化、認証、認可の各スキームを標準化できます。

オペレーショナルレベルアグリーメント (OLA)

サービスレベルアグリーメント (SLA) をサポートするために、どの機能的 IT グループが互いに提供することを約束するかを明確にする契約。

運用準備状況レビュー (ORR)

質問と関連するベストプラクティスのチェックリスト。インシデントや起こり得る障害を理解、評価、防止したり、その範囲を縮小したりする際に役立ちます。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[Operational Readiness Reviews \(ORR\)](#)」を参照してください。

運用テクノロジー (OT)

産業オペレーション、機器、インフラストラクチャを制御するために物理環境と連携させるハードウェアおよびソフトウェアシステム。製造分野では、[Industry 4.0](#) への変革を進める上で、OT と情報技術 (IT) システムの統合に焦点が当てられています。

オペレーション統合 (OI)

クラウドでオペレーションをモダナイズするプロセスには、準備計画、オートメーション、統合が含まれます。詳細については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

組織の証跡

組織 AWS アカウント 内のすべてのイベント AWS CloudTrail をログに記録することによって作成された証跡 AWS Organizations。証跡は、組織に含まれている各 AWS アカウントに作成され、各アカウントのアクティビティを追跡します。詳細については、CloudTrail ドキュメントの「[組織の証跡の作成](#)」を参照してください。

組織変更管理 (OCM)

人材、文化、リーダーシップの観点から、主要な破壊的なビジネス変革を管理するためのフレームワーク。OCM は、変化の導入を加速し、移行問題に対処し、文化や組織の変化を推進することで、組織が新しいシステムと戦略の準備と移行するのを支援します。AWS 移行戦略では、クラウド導入プロジェクトに必要な変化のスピードにより、このフレームワークは人材アクセラレーションと呼ばれます。詳細については、[OCM ガイド](#)を参照してください。

オリジンアクセス制御 (OAC)

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) コンテンツを保護するための、CloudFront のアクセス制限の強化オプション。OAC は AWS リージョン、すべての S3 バケット、AWS KMS (SSE-KMS) によるサーバー側の暗号化、S3 バケットへの動的 PUT および DELETE リクエストをサポートします。

オリジンアクセスアイデンティティ (OAI)

CloudFront の、Amazon S3 コンテンツを保護するためのアクセス制限オプション。OAI を使用すると、CloudFront が、Amazon S3 に認証可能なプリンシパルを作成します。認証されたプリンシパルは、S3 バケット内のコンテンツに、特定の CloudFront ディストリビューションを介してのみアクセスできます。[OAC](#) も併せて参照してください。OAC では、より詳細な、強化されたアクセス制御が可能です。

ORR

「[運用準備状況レビュー](#)」を参照してください。

OT

「[運用テクノロジー](#)」を参照してください。

アウトバウンド (送信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション内から開始されたネットワーク接続を処理する VPC。AWS Security Reference Architecture では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

P

アクセス許可の境界

ユーザーまたはロールが使用できるアクセス許可の上限を設定する、IAM プリンシパルにアタッチされる IAM 管理ポリシー。詳細については、IAM ドキュメントの[アクセス許可の境界](#)を参照してください。

個人を特定できる情報 (PII)

直接閲覧した場合、または他の関連データと組み合わせた場合に、個人の身元を合理的に推測するために使用できる情報。PII の例には、氏名、住所、連絡先情報などがあります。

PII

「[個人を特定できる情報](#)」を参照してください。

プレイブック

クラウドでのコアオペレーション機能の提供など、移行に関連する作業を取り込む、事前定義された一連のステップ。プレイブックは、スクリプト、自動ランブック、またはお客様のモダナイズされた環境を運用するために必要なプロセスや手順の要約などの形式をとることができます。

PLC

「[プログラマブルロジックコントローラー](#)」を参照してください。

PLM

「[製品ライフサイクル管理](#)」を参照してください。

ポリシー

次の操作を可能にするオブジェクト: アクセス許可を定義する ([ID ベースのポリシー](#)を参照)。アクセス条件を指定する ([リソースベースのポリシー](#)を参照)。AWS Organizations の組織における全アカウントにアクセス許可の上限を定義する ([サービスコントロールポリシー](#)を参照)。

多言語の永続性

データアクセスパターンやその他の要件に基づいて、マイクロサービスのデータストレージテクノロジーを個別に選択します。マイクロサービスが同じデータストレージテクノロジーを使用している場合、実装上の問題が発生したり、パフォーマンスが低下する可能性があります。マイクロサービスは、要件に最も適合したデータストアを使用すると、より簡単に実装でき、パフォーマンスとスケーラビリティが向上します。

ポートフォリオ評価

移行を計画するために、アプリケーションポートフォリオの検出、分析、優先順位付けを行うプロセス。詳細については、「[移行の準備状況の評価](#)」を参照してください。

述語

true または false を返すためのクエリ条件。一般的に、WHERE 句に記述されます。

述語プッシュダウン

データベースクエリを最適化する手法。これによって、転送前にクエリ内のデータをフィルタリングします。この手法を取ると、リレーショナルデータベースから取得し処理する必要のあるデータの量が減少するため、クエリのパフォーマンスが向上します。

予防的コントロール

イベントの発生を防ぐように設計されたセキュリティコントロール。このコントロールは、ネットワークへの不正アクセスや好ましくない変更を防ぐ最前線の防御です。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[予防的コントロール](#)」を参照してください。

プリンシパル

アクションを実行し AWS、リソースにアクセスできるのエンティティ。このエンティティは通常、IAM AWS アカウントロール、またはユーザーのルートユーザーです。詳細については、IAM ドキュメントの「[ロールに関する用語と概念](#)」にあるプリンシパルを参照してください。

プライバシーバイデザイン

開発プロセス全体を通してプライバシーが考慮されているシステムエンジニアリングのアプローチ。

プライベートホストゾーン

1つ以上の VPC 内のドメインとそのサブドメインへの DNS クエリに対し、Amazon Route 53 がどのように応答するかに関する情報を保持するコンテナ。詳細については、Route 53 ドキュメントの「[プライベートホストゾーンの使用](#)」を参照してください。

プロアクティブコントロール

非準拠リソースのデプロイ防止を目的とした[セキュリティコントロール](#)。このコントロールにより、プロビジョニング前にリソースをスキャンします。コントロールに準拠していないリソースは、プロビジョニングされません。詳細については、AWS Control Tower ドキュメントの「[コントロールリファレンスガイド](#)」および「[セキュリティコントロールの実装](#)」の「[プロアクティブコントロール](#)」を参照してください。 AWS

製品ライフサイクル管理 (PLM)

製品の設計、開発、発売から、成長、成熟、衰退、廃棄に至る、製品のライフサイクル全体を通してデータとプロセスを管理すること。

本番環境

「[環境](#)」を参照してください。

プログラマブルロジックコントローラー (PLC)

製造分野で使用される、信頼性と適応性に優れたコンピュータであり、これによって、マシンをモニタリングするとともに、製造プロセスを自動化します。

プロンプトチェイニング

1つの [LLM](#) プロンプトによる出力を次のプロンプトの入力に使用して、より良いレスポンスを生成します。この手法を使用すると、複雑なタスクをサブタスクに分割したり、事前レスポンスを繰り返し改良または拡張したりできます。これによって、モデルのレスポンスの精度と関連性が向上し、粒度の高いパーソナライズされた結果を得られます。

仮名化

データセット内の個人識別子をプレースホルダー値に置き換えるプロセス。仮名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。仮名化されたデータは、依然として個人データとみなされます。

発行/サブスクライブ (pub/sub)

マイクロサービス間の非同期通信を可能にするパターン。これにより、スケーラビリティと応答性を向上させます。例えば、マイクロサービスベースの [MES](#) の場合、マイクロサービスは、他のマイクロサービスがサブスクライブ可能なチャンネルにイベントメッセージを発行できます。このシステムでは、発行サービスの変更なしに、新規マイクロサービスを追加できます。

Q

クエリプラン

手順などの一連のステップであり、SQL リレーショナルデータベースシステムのデータにアクセスするために使用されます。

クエリプランのリグレッション

データベースサービスのオプティマイザーが、データベース環境に特定の変更が加えられる前に選択されたプランよりも最適性の低いプランを選択すること。これは、統計、制限事項、環境設定、クエリパラメータのバインディングの変更、およびデータベースエンジンの更新などが原因である可能性があります。

R

RACI マトリックス

「[実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 \(RACI\)](#)」を参照してください。

RAG

「[検索拡張生成](#)」を参照してください。

ランサムウェア

決済が完了するまでコンピュータシステムまたはデータへのアクセスをブロックするように設計された、悪意のあるソフトウェア。

RASCI マトリックス

「[実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 \(RACI\)](#)」を参照してください。

RCAC

「[行と列のアクセス制御](#)」を参照してください。

リードレプリカ

読み取り専用で使用されるデータベースのコピー。クエリをリードレプリカにルーティングして、プライマリデータベースへの負荷を軽減できます。

リアーキテクト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

目標復旧時点 (RPO)

最後のデータリカバリポイントからの最大許容時間です。これにより、最後の回復時点からサービスが中断されるまでの間に許容できるデータ損失の程度が決まります。

目標復旧時間 (RTO)

サービスが中断から復旧までの最大許容遅延時間。

リファクタリング

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リージョン

地理的エリア内の AWS リソースのコレクション。各 AWS リージョンは、耐障害性、安定性、耐障害性を提供するために、他のから分離され、独立しています。詳細については、「[アカウントが使用できる AWS リージョンを指定する](#)」を参照してください。

リグレッション

数値を予測する機械学習手法。例えば、「この家はどれくらいの値段で売れるでしょうか?」という問題を解決するために、機械学習モデルは、線形回帰モデルを使用して、この家に関する既知の事実 (平方フィートなど) に基づいて家の販売価格を予測できます。

リホスト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リリース

デプロイプロセスで、変更を本番環境に昇格させること。

再配置

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リプラットフォーム

「[7 Rs](#)」を参照してください。

再購入

「[7 Rs](#)」を参照してください。

回復性

中断に抵抗または中断から回復するアプリケーションの機能。AWS クラウドでの回復力を計画する際には、一般的に、[高可用性](#)と[ディザスタリカバリ](#)が考慮されます。詳細については、「[AWS クラウドの耐障害性](#)」を参照してください。

リソースベースのポリシー

Amazon S3 バケット、エンドポイント、暗号化キーなどのリソースにアタッチされたポリシー。このタイプのポリシーは、アクセスが許可されているプリンシパル、サポートされているアクション、その他の満たすべき条件を指定します。

実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 (RACI) に基づくマトリックス

移行活動とクラウド運用に関わるすべての関係者の役割と責任を定義したマトリックス。マトリックスの名前は、マトリックスで定義されている責任の種類、すなわち責任 (R)、説明責任 (A)、協議 (C)、情報提供 (I) に由来します。サポート (S) タイプはオプションです。サポートが含まれる場合は RASCI マトリックスと呼ばれ、含まれない場合は RACI マトリックスと呼ばれます。

レスポンスコントロール

有害事象やセキュリティベースラインからの逸脱について、修復を促すように設計されたセキュリティコントロール。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[レスポンスコントロール](#)」を参照してください。

保持

「[7 Rs](#)」を参照してください。

廃止

「[7 Rs](#)」を参照してください。

検索拡張生成 (RAG)

[生成 AI](#) の技術。これにより、[LLM](#) では、レスポンスの生成前に、トレーニングデータソースの外部にある信頼できるデータソースが参照されます。例えば、RAG モデルによって、組織のナレッジベースまたはカスタムデータのセマンティック検索を実行できる場合があります。細については、「[RAG \(検索拡張生成\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

ローテーション

定期的に[シークレット情報](#)を更新して、攻撃者が認証情報にアクセスするのをより困難にするプロセス。

行と列のアクセス制御 (RCAC)

アクセスルールが定義された、基本的で柔軟な SQL 表現の使用。RCAC は行権限と列マスクで構成されています。

RPO

「[目標復旧時点](#)」を参照してください。

RTO

「[目標復旧時間](#)」を参照してください。

ランブック

特定のタスクを実行するために必要な手動または自動化された一連の手順。これらは通常、エラー率の高い反復操作や手順を合理化するために構築されています。

S

SAML 2.0

多くの ID プロバイダー (IdP) が使用しているオープンスタンダード。この機能を使用すると、フェデレーテッドシングルサインオン (SSO) が有効になるため、ユーザーは組織内のすべてのユーザーを IAM で作成しなくても、AWS マネジメントコンソールにログインしたり AWS、API オペレーションを呼び出すことができます。SAML 2.0 ベースのフェデレーションの詳細については、IAM ドキュメントの「[SAML 2.0 ベースのフェデレーションについて](#)」を参照してください。

SCADA

「[監視制御とデータ取得](#)」を参照してください。

SCP

「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

シークレット

暗号化された形式で保存するパスワードやユーザー認証情報などの AWS Secrets Manager 機密情報または制限付き情報。シークレット値とそのメタデータで構成されます。シークレット値には、バイナリ、1 つの文字列、複数の文字列を指定できます。詳細については、Secrets Manager ドキュメントの「[Secrets Manager シークレットの概要](#)」を参照してください。

セキュリティバイデザイン

開発プロセス全体を通してセキュリティが考慮されているシステムエンジニアリングのアプローチ。

セキュリティコントロール

脅威アクターによるセキュリティ脆弱性の悪用を防止、検出、軽減するための、技術上または管理上のガードレール。セキュリティコントロールには、主に4つの種類があります。4つとは、[予防](#)、[検出](#)、[レスポンス](#)、[プロアクティブ](#)です。

セキュリティ強化

アタックサーフェスを狭めて攻撃への耐性を高めるプロセス。このプロセスには、不要になったリソースの削除、最小特権を付与するセキュリティのベストプラクティスの実装、設定ファイル内の不要な機能の無効化、といったアクションが含まれています。

Security Information and Event Management (SIEM) システム

セキュリティ情報管理 (SIM) とセキュリティイベント管理 (SEM) のシステムを組み合わせたツールとサービス。SIEM システムは、サーバー、ネットワーク、デバイス、その他ソースからデータを収集、モニタリング、分析して、脅威やセキュリティ違反を検出し、アラートを発信します。

セキュリティレスポンスの自動化

セキュリティイベントへの自動レスポンスまたは自動修復を目的として、事前定義およびプログラムされたアクション。これらの自動化は、セキュリティのベストプラクティスを実装するのに役立つ[検出的](#)または[応答的](#)な AWS セキュリティコントロールとして機能します。自動レスポンスアクションの例には、VPC セキュリティグループの変更、Amazon EC2 インスタンスへのパッチ適用、認証情報の更新などがあります。

サーバー側の暗号化

送信先にあるデータの、それ AWS のサービスを受け取る による暗号化。

サービスコントロールポリシー (SCP)

AWS Organizationsの組織内の、すべてのアカウントのアクセス許可を一元的に管理するポリシー。SCP は、管理者がユーザーまたはロールに委任するアクションに、ガードレールを定義したり、アクションの制限を設定したりします。SCP は、許可リストまたは拒否リストとして、許可または禁止するサービスやアクションを指定する際に使用できます。詳細については、AWS Organizations ドキュメントの「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

サービスエンドポイント

のエンドポイントの URL AWS のサービス。ターゲットサービスにプログラムで接続するには、エンドポイントを使用します。詳細については、「AWS 全般のリファレンス」の「[AWS のサービス エンドポイント](#)」を参照してください。

サービスレベルアグリーメント (SLA)

サービスのアップタイムやパフォーマンスなど、IT チームがお客様に提供すると約束したものを明示した合意書。

サービスレベルインジケータ (SLI)

エラー率、可用性、スループットといった、サービスパフォーマンス面の指標。

サービスレベル目標 (SLO)

[サービスレベルインジケータ](#)によって測定され、サービスの状態を表すターゲットメトリクス。

責任共有モデル

クラウドのセキュリティとコンプライアンス AWS について と共有する責任を説明するモデル。AWS はクラウドのセキュリティを担当しますが、お客様はクラウドのセキュリティを担当します。詳細については、「[責任共有モデル](#)」を参照してください。

SIEM

「[Security Information and Event Management システム](#)」を参照してください。

単一障害点 (SPOF)

特定のアプリケーションを構成する単一の重要なコンポーネントで発生し、システム稼働に支障をきたす可能性のある障害。

SLA

「[サービスレベルアグリーメント](#)」を参照してください。

SLI

「[サービスレベルインジケータ](#)」を参照してください。

SLO

「[サービスレベルの目標](#)」を参照してください。

スプリットアンドシードモデル

モダナイゼーションプロジェクトのスケーリングと加速のためのパターン。新機能と製品リリースが定義されると、コアチームは解放されて新しい製品チームを作成します。これにより、お客様の組織の能力とサービスの拡張、デベロッパーの生産性の向上、迅速なイノベーションのサポートに役立ちます。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションをモダナイズするための段階的アプローチ](#)」を参照してください。

SPOF

「[単一障害点](#)」を参照してください。

スタースキーマ

データベースの編成構造を意味し、1つの大きいファクトテーブルにトランザクションデータまたは測定データが保存され、1つ以上の小さいディメンションテーブルにデータ属性が保存されます。この構造は、[データウェアハウス](#)やビジネスインテリジェンスを用途とするように設計されています。

strangler fig パターン

レガシーシステムが廃止されるまで、システム機能を段階的に書き換えて置き換えることにより、モノリシックシステムをモダナイズするアプローチ。このパターンは、宿主の樹木から根を成長させ、最終的にその宿主を包み込み、宿主に取って代わるイチジクのつるを例えています。そのパターンは、モノリシックシステムを書き換えるときのリスクを管理する方法として [Martin Fowler](#) により提唱されました。このパターンの適用方法の例については、「[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)」を参照してください。

サブネット

VPC 内の IP アドレスの範囲。サブネットは、1つのアベイラビリティゾーンに存在する必要があります。

監視制御とデータ取得 (SCADA)

製造分野において、ハードウェアとソフトウェアを使用して物理アセットと本番運用をモニタリングするシステム。

対称暗号化

データの暗号化と復号に同じキーを使用する暗号化のアルゴリズム。

合成テスト

ユーザーとのやり取りをシミュレートして、起こり得る問題を検出したり、パフォーマンスをモニタリングしたりすることで、システムをテストします。[Amazon CloudWatch Synthetics](#) を使用すると、こうしたテストを作成できます。

システムプロンプト

コンテキスト、指示、ガイドラインなどを提示して、[LLM](#) に動作を指示する手法。システムプロンプトは、コンテキストを設定して、ユーザーとやり取りするルールを確立するのに有用です。

T

タグ

AWS リソースを整理するためのメタデータとして機能するキーと値のペア。タグは、リソースの管理、識別、整理、検索、フィルタリングに役立ちます。詳細については、「[AWS リソースのタグ付け](#)」を参照してください。

ターゲット変数

監督された機械学習でお客様が予測しようとしている値。これは、結果変数のことも指します。例えば、製造設定では、ターゲット変数が製品の欠陥である可能性があります。

タスクリスト

ランブックの進行状況を追跡するために使用されるツール。タスクリストには、ランブックの概要と完了する必要がある一般的なタスクのリストが含まれています。各一般的なタスクには、推定所要時間、所有者、進捗状況が含まれています。

テスト環境

「[環境](#)」を参照してください。

トレーニング

お客様の機械学習モデルに学習するデータを提供すること。トレーニングデータには正しい答えが含まれている必要があります。学習アルゴリズムは入力データ属性をターゲット (お客様が予測したい答え) にマッピングするトレーニングデータのパターンを検出します。これらのパターンをキャプチャする機械学習モデルを出力します。そして、お客様が機械学習モデルを使用して、ターゲットがわからない新しいデータでターゲットを予測できます。

トランジットゲートウェイ

VPC とオンプレミスネットワークを相互接続するために使用できる、ネットワークの中継ハブ。詳細については、AWS Transit Gateway ドキュメントの「[トランジットゲートウェイとは](#)」を参照してください。

トランクベースのワークフロー

デベロッパーが機能ブランチで機能をローカルにビルドしてテストし、その変更をメインブランチにマージするアプローチ。メインブランチはその後、開発環境、本番前環境、本番環境に合わせて順次構築されます。

信頼されたアクセス

ユーザーに代わって AWS Organizations およびそのアカウントで組織内でタスクを実行するために指定したサービスにアクセス許可を付与します。信頼されたサービスは、サービスにリンクされたロールを必要なときに各アカウントに作成し、ユーザーに代わって管理タスクを実行します。詳細については、ドキュメントの「[他の AWS のサービス AWS Organizations で使用する AWS Organizations](#)」を参照してください。

チューニング

機械学習モデルの精度を向上させるために、お客様のトレーニングプロセスの側面を変更する。例えば、お客様が機械学習モデルをトレーニングするには、ラベル付けセットを生成し、ラベルを追加します。これらのステップを、異なる設定で複数回繰り返して、モデルを最適化します。

ツーピザチーム

2 枚のピザを分け合えることができるくらい小さな DevOps チーム。ツーピザチームの規模では、ソフトウェア開発におけるコラボレーションに最適な機会が確保されます。

U

不確実性

予測機械学習モデルの信頼性を損なう可能性がある、不正確、不完全、または未知の情報を指す概念。不確実性には、次の 2 つのタイプがあります。認識論的不確実性は、限られた、不完全なデータによって引き起こされ、弁論的不確実性は、データに固有のノイズとランダム性によって引き起こされます。詳細については、[深層学習システムにおける不確実性の定量化ガイド](#)を参照してください。

未分化なタスク

ヘビーリフティングとも呼ばれ、アプリケーションの作成と運用には必要だが、エンドユーザーに直接的な価値をもたらさなかったり、競争上の優位性をもたらしたりしない作業です。未分化なタスクの例としては、調達、メンテナンス、キャパシティプランニングなどがあります。

上位環境

「[環境](#)」を参照してください。

V

バキューミング

ストレージを再利用してパフォーマンスを向上させるために、増分更新後にクリーンアップを行うデータベースのメンテナンス操作。

バージョンコントロール

リポジトリ内のソースコードへの変更など、変更を追跡するプロセスとツール。

VPC ピアリング

プライベート IP アドレスを使用してトラフィックをルーティングできる、2 つの VPC 間の接続。詳細については、Amazon VPC ドキュメントの「[VPC ピア機能とは](#)」を参照してください。

脆弱性

システムのセキュリティを脅かすソフトウェアまたはハードウェアの欠陥。

W

ウォームキャッシュ

頻繁にアクセスされる最新の関連データを含むバッファキャッシュ。データベースインスタンスはバッファキャッシュから、メインメモリまたはディスクからよりも短い時間で読み取りを行うことができます。

ウォームデータ

アクセス頻度の低いデータ。この種類のデータをクエリする場合、通常は適度に遅いクエリでも問題ありません。

ウィンドウ関数

現在のレコードに何らかの形で関連している行のグループに計算を実行する SQL 関数。ウィンドウ関数は、移動平均を計算したり、現在の行の相対位置に基づいて他の行の値にアクセスするといったタスクの処理に役立ちます。

ワークロード

ビジネス価値をもたらすリソースとコード (顧客向けアプリケーションやバックエンドプロセスなど) の総称。

ワークストリーム

特定のタスクセットを担当する移行プロジェクト内の機能グループ。各ワークストリームは独立していますが、プロジェクト内の他のワークストリームをサポートしています。たとえば、ポートフォリオワークストリームは、アプリケーションの優先順位付け、ウェーブ計画、および移行メタデータの収集を担当します。ポートフォリオワークストリームは、これらの設備を移行ワークストリームで実現し、サーバーとアプリケーションを移行します。

WORM

「[Write-Once-Read-Many](#)」を参照してください。

WQF

「[AWS ワークロード資格フレームワーク](#)」を参照してください

Write-Once-Read-Many (WORM)

データを 1 回のみ書き込むことで、データの削除や変更を防ぐストレージモデル。承認済みユーザーは、必要な回数だけデータを読み取ることができますが、変更することはできません。このデータストレージインフラストラクチャは、[イミュータブル](#)と見なされます。

Z

ゼロデイ 익스プロイト

[ゼロデイ脆弱性](#)を悪用した攻撃 (一般的にマルウェアによる)。

ゼロデイ脆弱性

実稼働システムにおける未解決の欠陥または脆弱性。脅威アクターは、このような脆弱性を利用してシステムを攻撃する可能性があります。開発者は、よく攻撃の結果で脆弱性に気付きます。

ゼロショットプロンプト

[LLM](#) にタスク実行の手順は提示するが、実行のガイドとして役立つ例 (ショット) は提示しない方法。LLM は、事前トレーニング済みの知識を使用してタスクを処理する必要があります。ゼロショットプロンプトの有効性は、タスクの複雑さとプロンプトの品質によって異なります。「[数ショットプロンプト](#)」も参照してください。

ゾンビアプリケーション

平均 CPU およびメモリ使用率が 5% 未満のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するのが一般的です。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。